



サーバー入替マニュアル

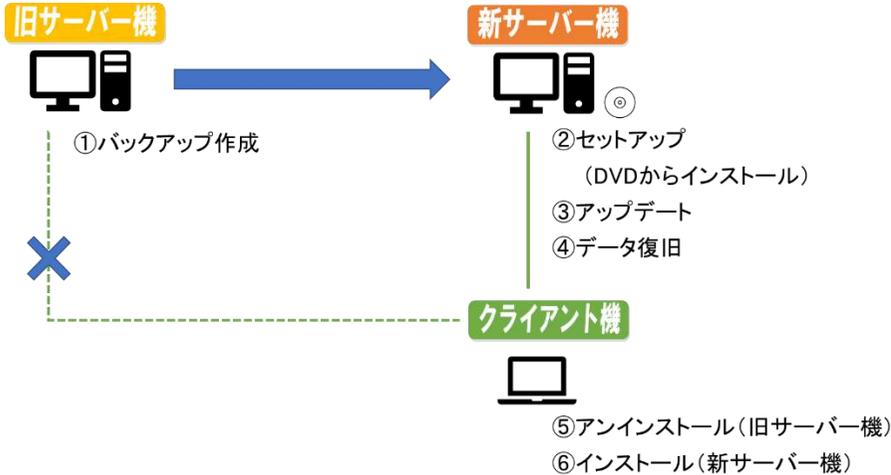
目次

I.	サーバー入替手順	1
II.	事前準備	2
	【1】 環境確認	2
	【2】 データバックアップ作成	3
III.	サーバー インストール	6
	【1】 データベースのインストール	6
	【2】 『どっと原価 NEO シリーズ』を別のコンピュータから使用する際の設定	17
	【3】 基本システムの新規インストール	29
	【4】 環境設定1 (Windows へのログインユーザーにパスワードを設定しない場合)	37
	【5】 環境設定2 (LAN 追加ライセンスで別のコンピュータから使用する場合)	39
IV.	サーバー アップデート	42
	【1】 アップデート版ダウンロード	42
	【2】 基本システム アップデート	44
	【3】 補足,セキュリティ設定により警告メッセージが出る場合	47
V.	データ復旧	51
	【1】 データ復旧 (バックアップデータから復旧する)	51
	【2】 Excel データ復旧 (バックアップデータから復旧する)	55
VI.	クライアント アンインストール&インストール	57
	【1】 クライアントのアンインストール	57
	【2】 クライアント 新規インストール	58
VII.	旧サーバー アンインストール	65
	【1】 基本システムのアンインストール	65
VIII.	OS及び接続環境上の注意事項	66

I. サーバー入替手順

※サーバー入替には『どっと原価 NEO シリーズ』インストール DVD」とライセンス表が必要です。ご用意ください。
※サーバー入替を行う間、サーバー機以外の『どっと原価 NEO シリーズ』を操作しないでください。

以下の流れで『どっと原価 NEO シリーズ』のサーバー入替を行います。



サーバー入替手順

【旧サーバー機】 データバックアップを作成 P3

- ① 『どっと原価 NEO シリーズ』のバックアップデータ作成



【新サーバー機】 基本システムのインストール P6

- ② 『どっと原価 NEO シリーズ』セットアップ (インストール)
- ③ 『どっと原価 NEO シリーズ』アップデート



【新サーバー機】 データ復旧 P51

- ④ 『どっと原価 NEO シリーズ』のデータ復旧



【クライアント機】 クライアントのアンインストール P57

- ⑤ クライアントのアンインストール



【クライアント機】 クライアントの新規インストール P58

- ⑥ クライアントセットアップ (インストール)



【旧サーバー機】 基本システムのアンインストール P65

- 『どっと原価 NEO シリーズ』のアンインストール
- ※必要に応じて旧サーバーの『どっと原価 NEO シリーズ』をアンインストールします。

II. 事前準備

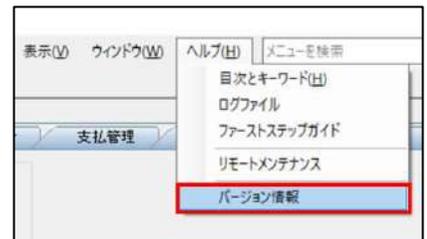
【1】 環境確認

1. 1 台の端末で『どっと原価 NEO シリーズ』を起動します。
2. SQLServer のバージョンを確認します。
「導入」タブ-「環境設定」を選択します。
3. 「サーバー」タブを開き「SQL バージョン」を確認します。
※「SQL バージョン」はこの後、新しいサーバー機に『どっと原価 NEO シリーズ』をインストールする際、必要な情報です。

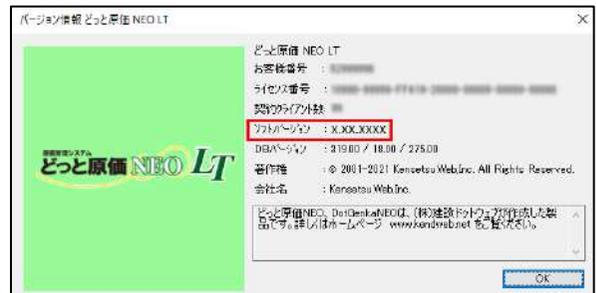


SQL バージョン	SQLServer
12.0	SQLServer2014
13.0	SQLServer2016
14.0	SQLServer2017
15.0	SQLServer2019

4. 『どっと原価 NEO シリーズ』のバージョンを確認します。
「ヘルプ」-「バージョン情報」を選択します。



5. 「ソフトバージョン」から現在の『どっと原価 NEO シリーズ』のバージョンを確認します。
※お手元にあるインストール DVD のバージョンが、現在の『どっと原価 NEO シリーズ』のバージョンより古い場合は、インストール後バージョンアップが必要です。

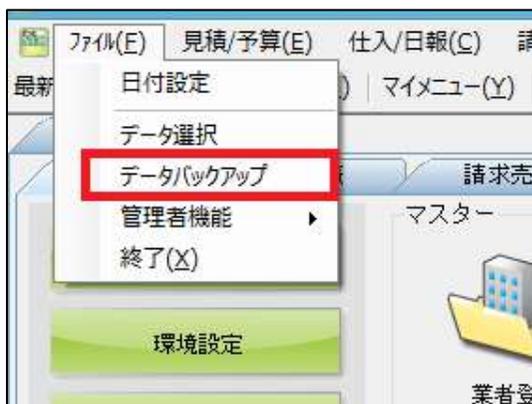


【2】 データバックアップ作成

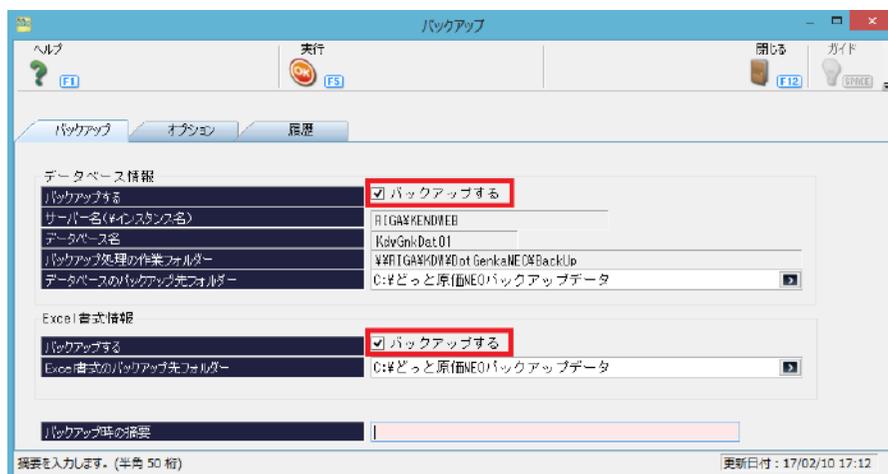
1. 『どっと原価 NEO シリーズ』を使用している全ての端末を終了してください。

※手順終了まで使用しないように各端末使用者へご連絡ください。

2. 旧サーバー機で『どっと原価 NEO シリーズ』を起動します。
3. バックアップをとりたい会社データにログインします。
4. 「ファイル」-「データバックアップ」を選択します。



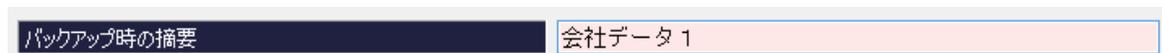
5. 「バックアップ」画面の「バックアップ」タブで、「データベース情報」と「Excel 書式情報」の「バックアップする」にチェックをつけます。



6. 「データベースのバックアップ先フォルダー」と「Excel 書式のバックアップ先フォルダー」でバックアップの保存先を設定します。サーバー入替のため、バックアップの保存先は USB や新サーバー機からもアクセスできるフォルダーを指定してください。



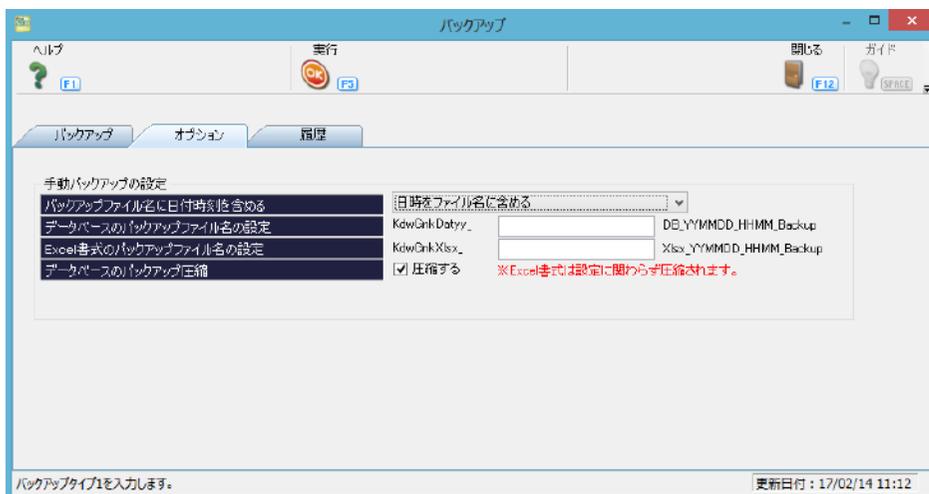
※1.会社データが複数ある場合は、「バックアップ時の摘要」を記載いただくと、データ復旧時に便利です。



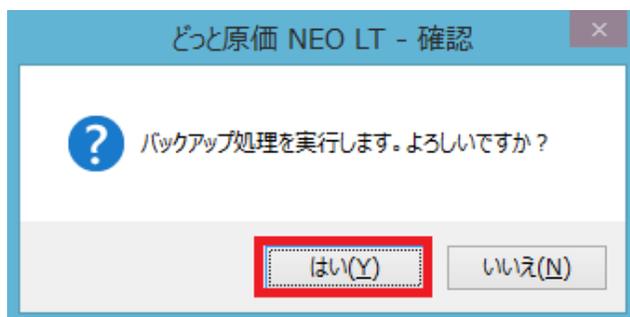
※2.バックアップデータの圧縮について

バックアップデータを圧縮されたい場合は、「オプション」タブの「データベースのバックアップ圧縮」で「圧縮する」にチェックをつけることで圧縮されます。

また、バックアップデータのファイル名に日時を表示されたい場合は「バックアップファイル名に日付時刻を含める」で「日時をファイル名に含める」を選択することで、日時が表示されます。



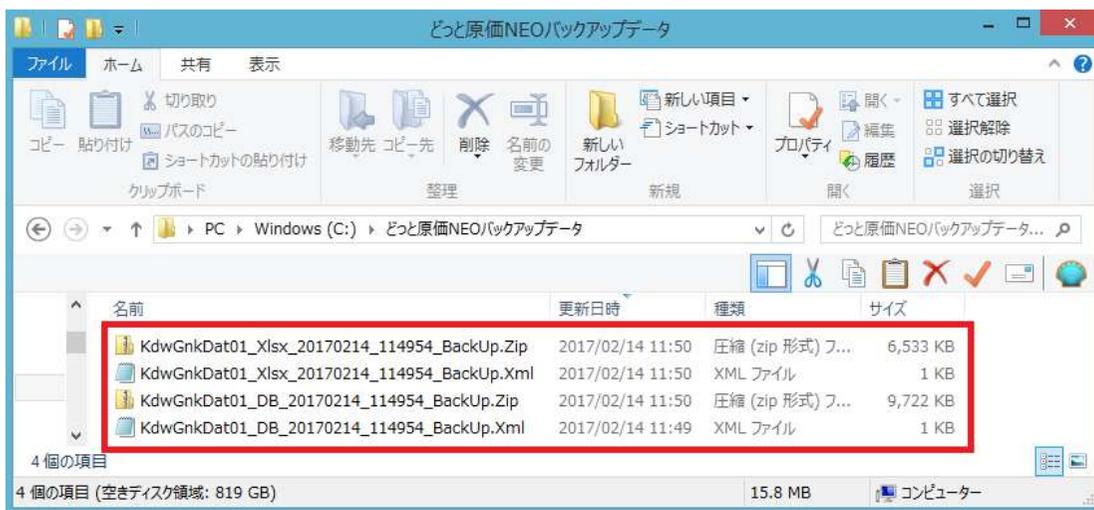
7. 「実行」を選択すると右図のメッセージが表示されます。
「はい」を選択するとバックアップ処理が開始します。



8. バックアップが完了すると右図のメッセージが表示されます。
「OK」で閉じます。



9. 手順6で設定した保存先にバックアップデータがとれたことを確認します。
(※画像は、日時をファイル名に含め、圧縮したバックアップデータになります。)



以上でバックアップデータの作成が完了となります。

**バックアップデータは、会社データごとに作成します。
会社データが複数ある場合は、手順3～9を会社データごとに実施ください。
Excel 書式はどの会社データでも同じ書式を使用しているため、
初めの1社のみ実施すればバックアップを取得できます。**

【1】 データベースのインストール

1. 新しいサーバー機に『どっと原価 NEO シリーズ』 SQLServer インストール DVD をセットします。

自動的に「SQLServer インストール」が起動します。

※自動的にセットアップ画面が起動しない場合は、DVD 中の「NEO_Install.vbs」をクリックして起動ください。

※SQLServer は HP からダウンロードできます。

※SQLServer2019 を推奨します。ただし、OS の制限がある場合は、その他のデータベースをご選択ください。

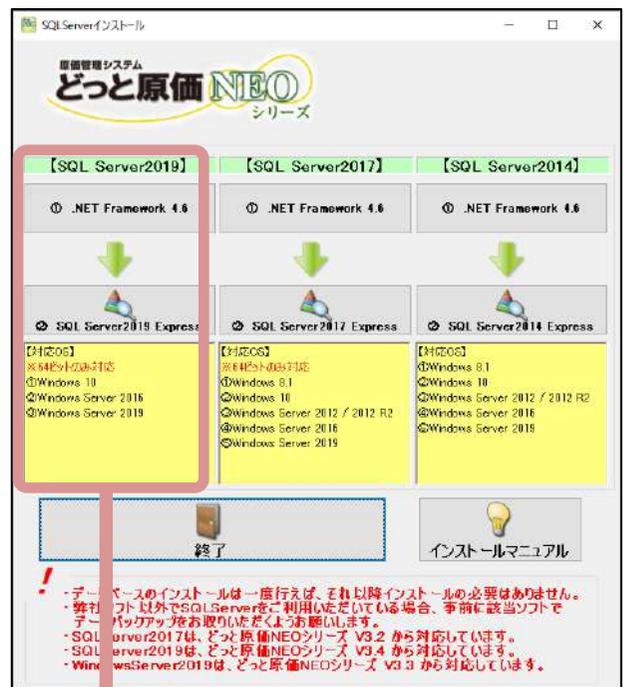
※SQLServer は P2 で確認したバージョンと同じ、または P2 で確認したバージョンより新しい製品をインストールしてください。

※SQLServer は新しい順に SQLServer2019、SQLServer2017、SQLServer2014 となります。

※ここでは SQLServer2019 のインストール方法を記載します。

上から順番に行ってください。

インストール先フォルダは、自動的に指定されます。



SQLServer2019 のインストール(→P7~)



SQLServer 導入時の注意点 :

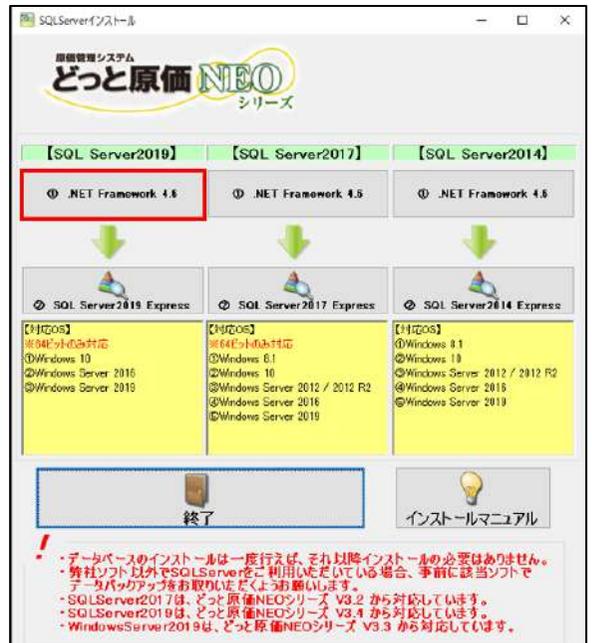
当社ソフト以外で、既に SQLServer のデータベースをご利用いただいている場合は、
該当ソフトで事前にデータのバックアップをお取りください。

SQLServer2019 Express のインストール

● .NET Framework 4.6 インストール ●

すでに.NET Framework 4.6がインストールされている場合は、選択できません。「SQLServer2019 Expressのインストール」へお進みください。(→P11~)

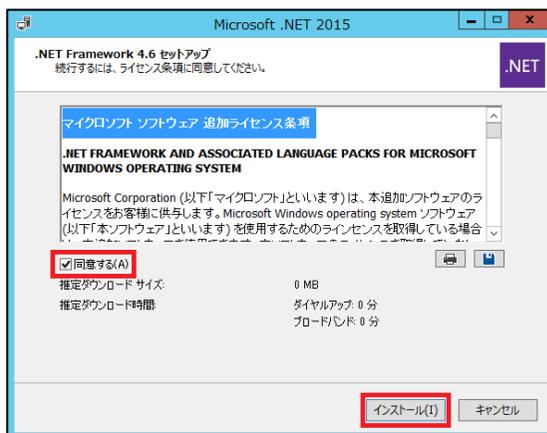
1. 「.NET Framework 4.6」のボタンを選択します。



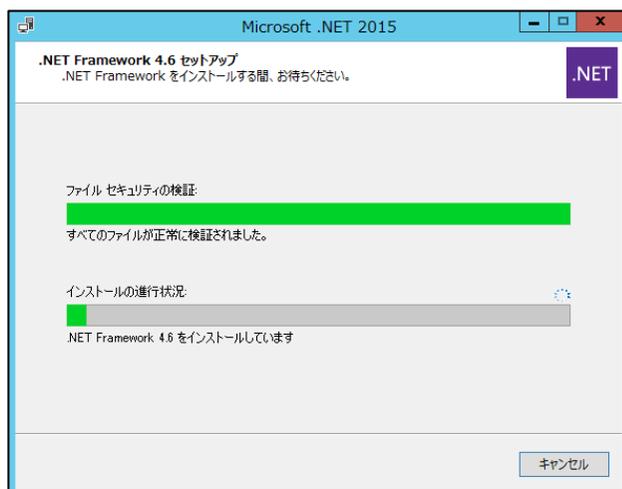
右図のようなセキュリティの警告メッセージが表示された場合は、「実行」ボタンを選択してください。



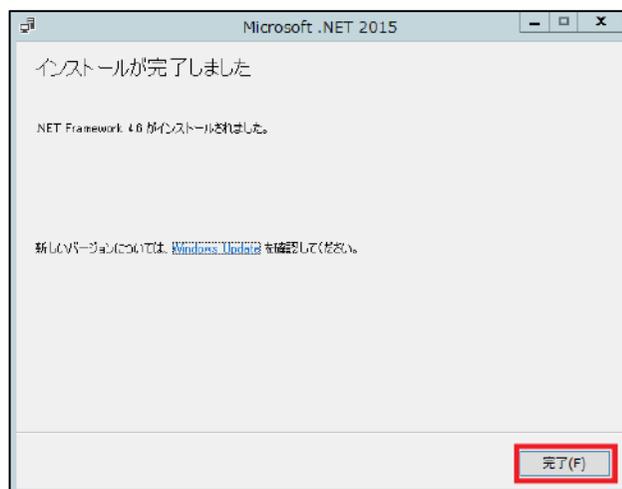
2. 「同意する」にチェックをつけて「インストール」ボタンを選択します。



3. 右図のようにインストールが開始されます。



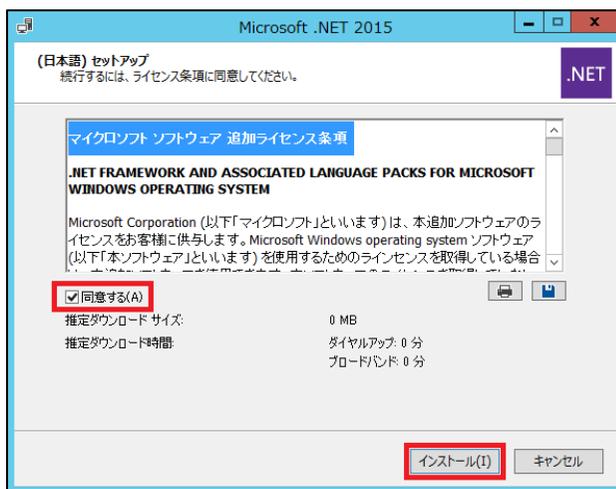
4. 「完了」ボタンを選択します。



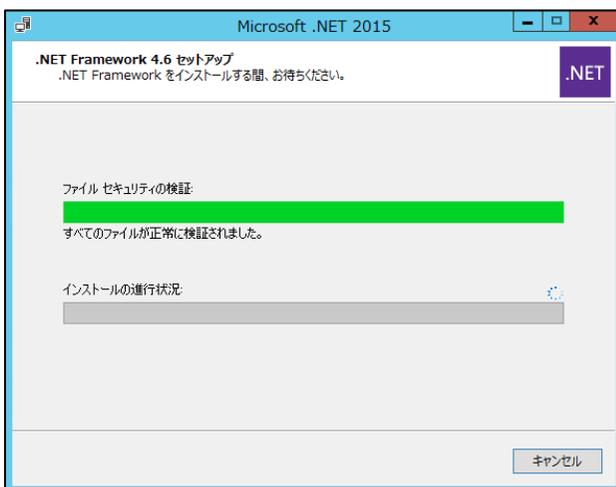
右図のようなセキュリティの警告メッセージが表示された場合は、「実行」ボタンを選択してください。



5. 「同意する」にチェックをつけて「インストール」ボタンを選択します。



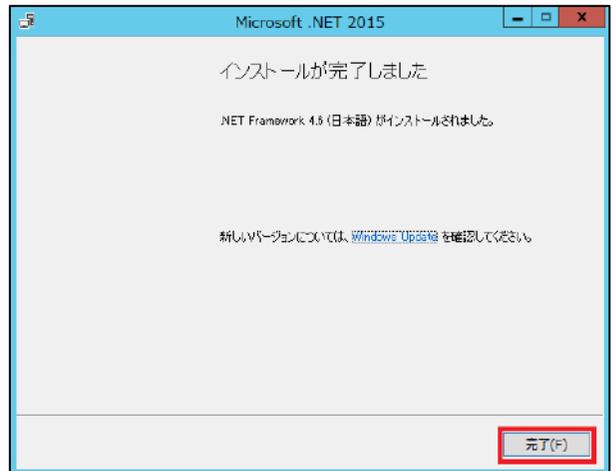
6. 右図のようにインストールが開始されます。



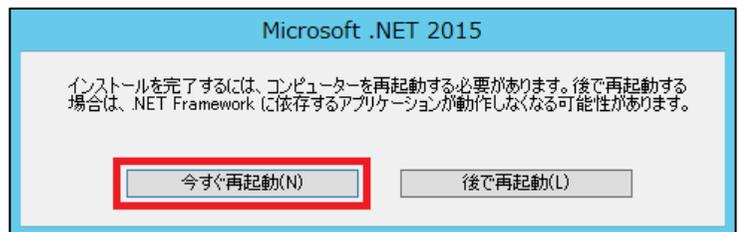
右図のような【プログラムを自動的に閉じますか？】画面が表示された場合は、「はい」を選択し、プログラムを閉じてください。



7. 完了ボタンを選択します。

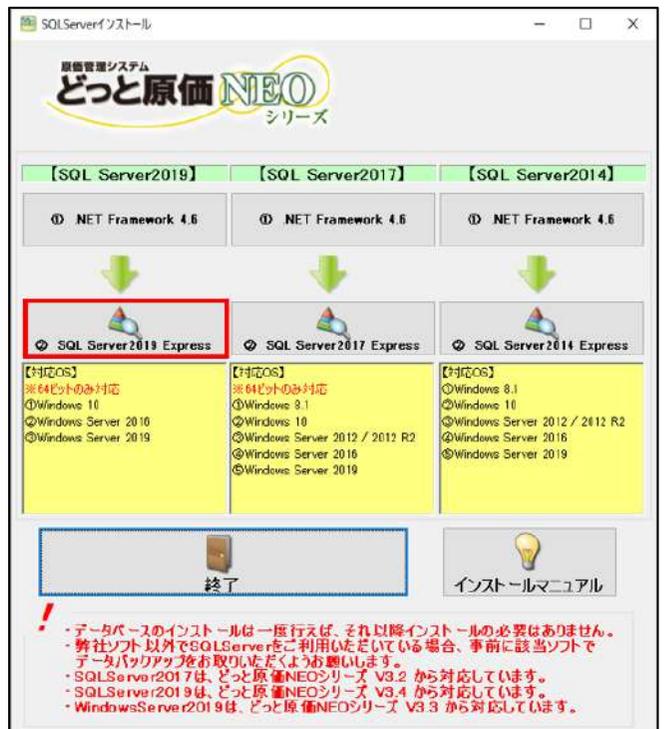


8. 「今すぐ再起動」を選択し、コンピューターを再起動します。再起動が完了したら、.NETFramework4.6 のインストールが完了です。



● SQLServer2019Express インストール ●

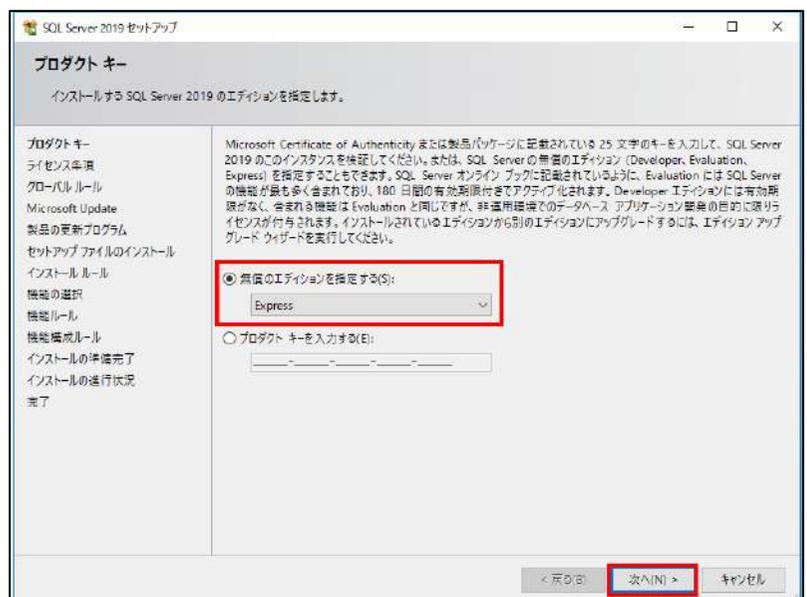
1. 「SQLServer2019Express」ボタンを選択します。



SQL Server 2019

Microsoft SQL Server 2019 セットアップは現在の操作を処理しています。しばらくお待ちください。

2. 【プロダクトキー】画面で「次へ」ボタンを選択します。



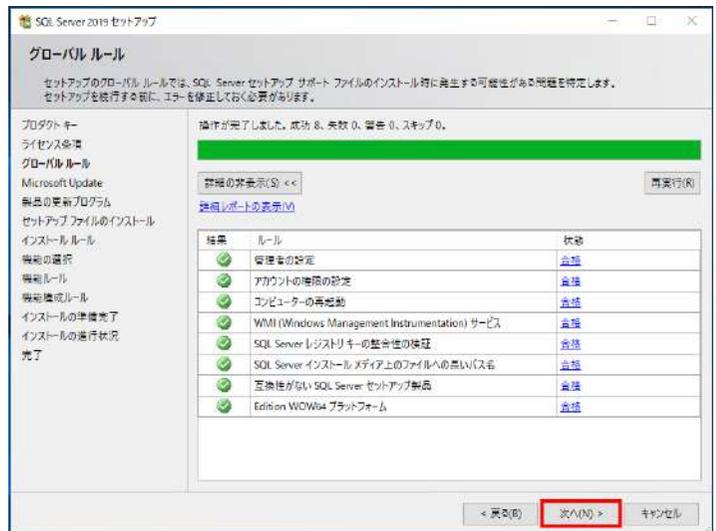
3. 【ライセンス条項】画面で

「ライセンス条項に同意します」にチェックを付けて、「次へ」ボタンを選択します。



4. 【グローバル ルール】画面で失敗がないかどうか確認します。

失敗がある場合は「詳細の表示」で何が問題かを確認して環境を整えてから再度インストールを行ってください。
(警告は無視して構いません)
問題がない場合は「次へ」ボタンを選択します。



5. 【Microsoft Update】画面で

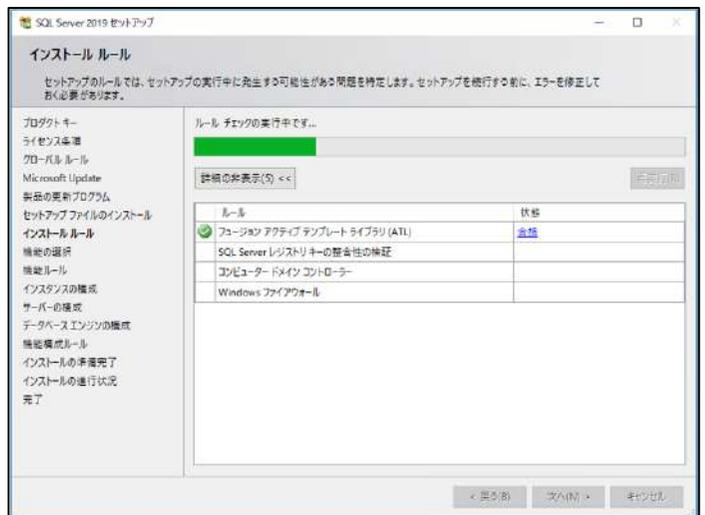
「次へ」ボタンを選択します。
(インターネットに接続されている場合は、「Microsoft Update を使用して更新プログラムを確認する」のチェックをつけてください。)



6. 【製品の更新プログラム】画面で「次へ」ボタンを選択します。



7. 右図のようにインストールが開始されます。

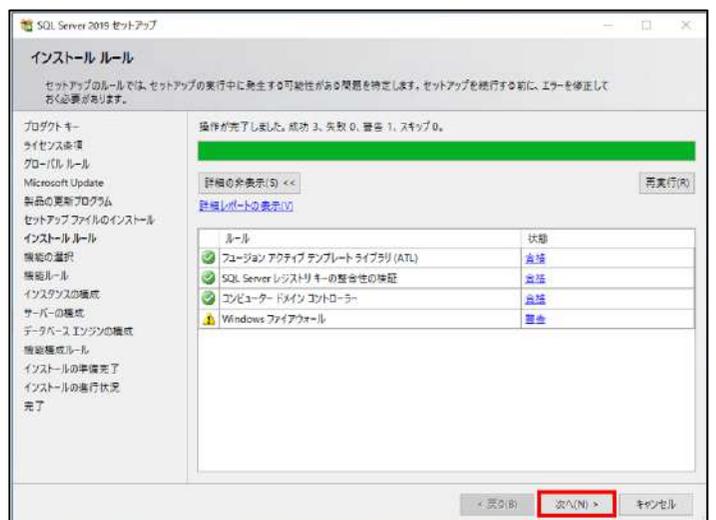


8. 【インストール ルール】画面で失敗がないかどうか確認します。

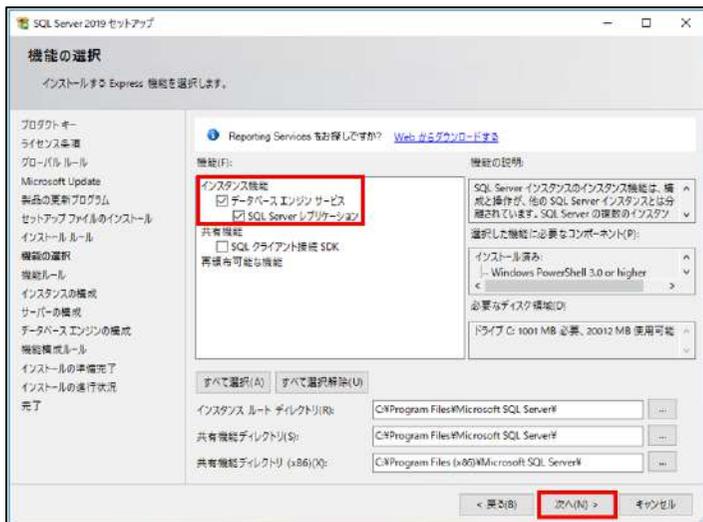
失敗がある場合は「詳細の表示」で何が問題かを確認して環境を整えてから再度インストールを行ってください。

(警告は無視して構いません)

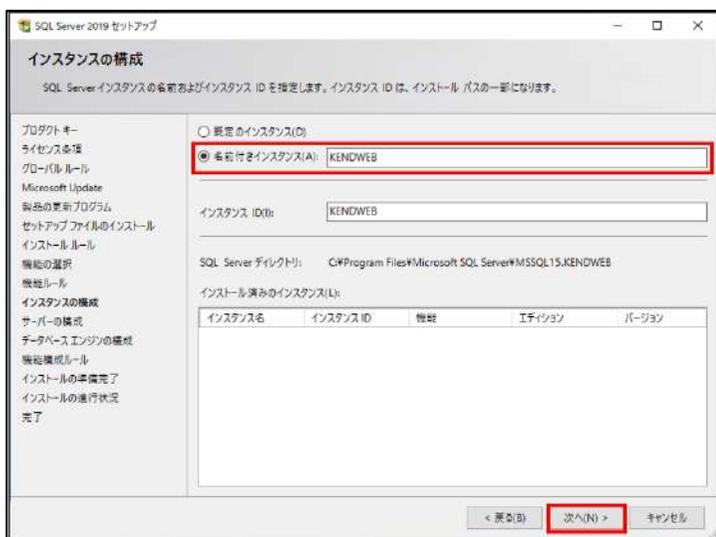
問題がない場合は「次へ」ボタンを選択します。



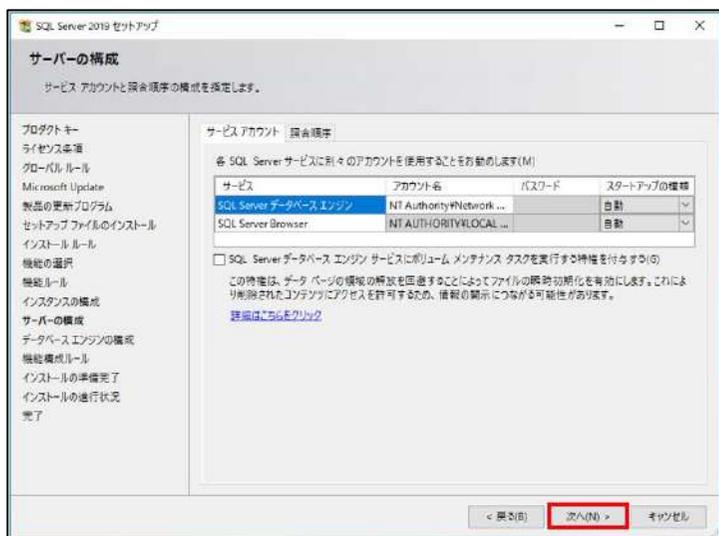
9. 【機能の選択】画面で
インスタンス機能の「データベースエンジンサービス」「SQL Server レプリケーション」にチェックを付けて、「次へ」ボタンを選択します。



10. 【インスタンスの構成】画面で
「名前付きインスタンス」を選択し、「次へ」ボタンを選択します。
(インスタンス名は“KENDWEB” (半角で大文字)が入ります。)



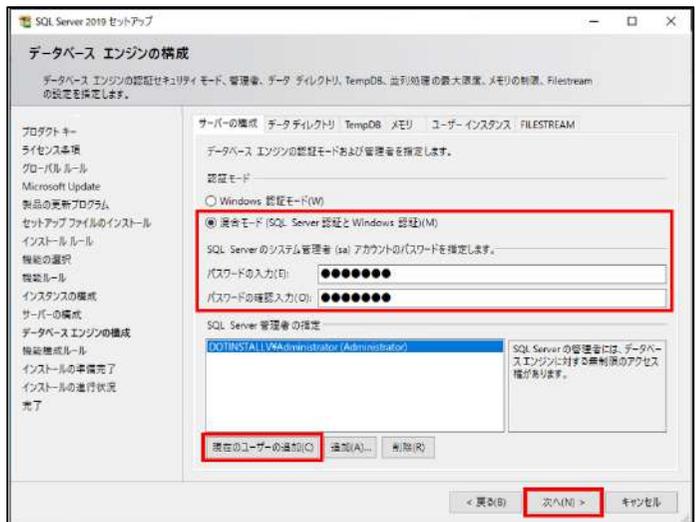
11. 【サーバーの構成】画面で「次へ」ボタンを選択します。
アカウント名が空白の場合には、ドロップダウンリストより
「NT Authority\Local System」または
「NT Authority\Network Service」を選択してください。



12. 【データベース エンジンの構成】画面で、「現在のユーザーの追加」ボタンを選択して（現在 Windows にログインしているユーザーが追加されます）、「次へ」ボタンを選択します。

（「パスワード」は“Kdw7823”（半角で大文字小文字あり）が入っています。

※Windows のパスワードポリシーが 8 桁以上の場合、“Kdw78234”など適宜変更願います。基本システムのインストール時にも同じパスワードの入力が必要となります。）

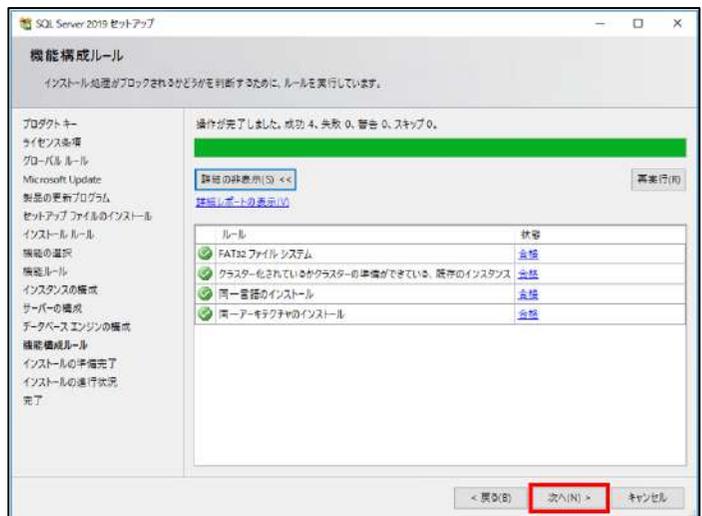


13. 【機能構成ルール】画面で失敗がないかどうか確認します。

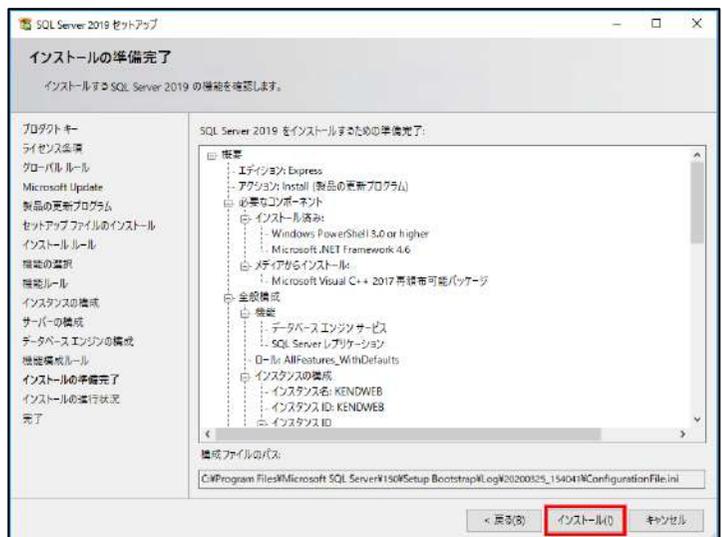
失敗がある場合は「詳細の表示」で何が問題かを確認して環境を整えてから再度インストールを行ってください。

（警告は無視して構いません）

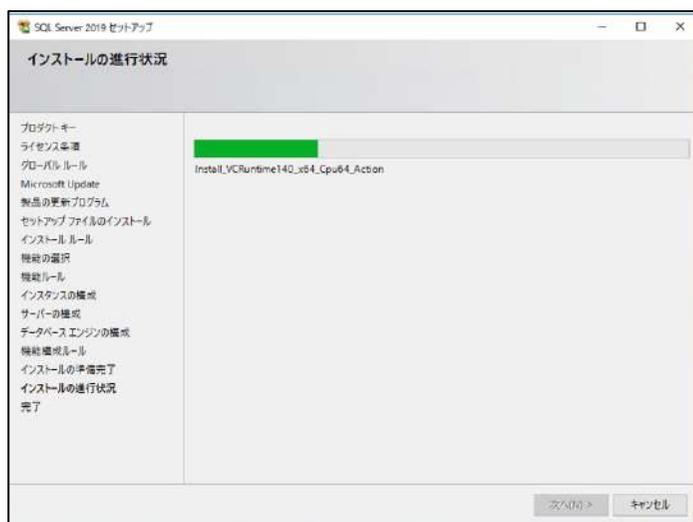
問題がない場合は「次へ」ボタンを選択します。



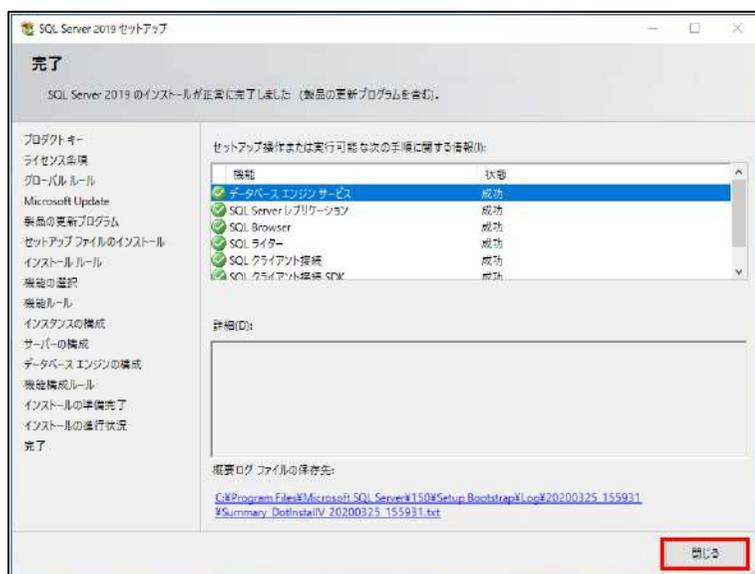
14. 【インストールの準備完了】画面で「インストール」ボタンを選択します。



15. 右のようにインストールが開始されます。



16. 【完了】画面になりますので、「閉じる」ボタンを選択します。



17. SQLServer2019Express インストールが完了しました。

(ア) 複数のパソコンで『どっと原価 NEO シリーズ』を使用される場合は、「【2】『どっと原価 NEO シリーズ』を別のコンピューターから使用する際の設定」へお進みください。(→P17～)

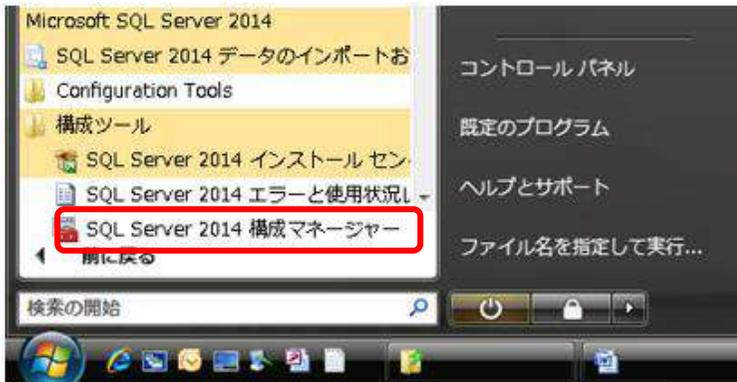
(イ) 複数のパソコンで使用されない場合は、「【3】基本システム新規インストール」へお進みください。(→P29～)

【2】 『どっと原価 NEO シリーズ』を別のコンピューターから使用する際の設定

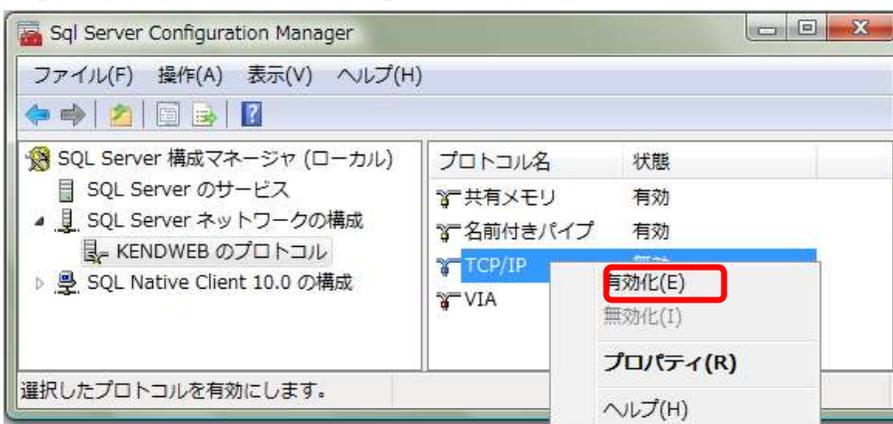
「Windows ファイアウォール」の機能により SQLServer2019/2017/2014 データベースのネットワーク接続をブロックしますので、以下の手順①、②の操作をお願いします。

① TCP ポートの設定

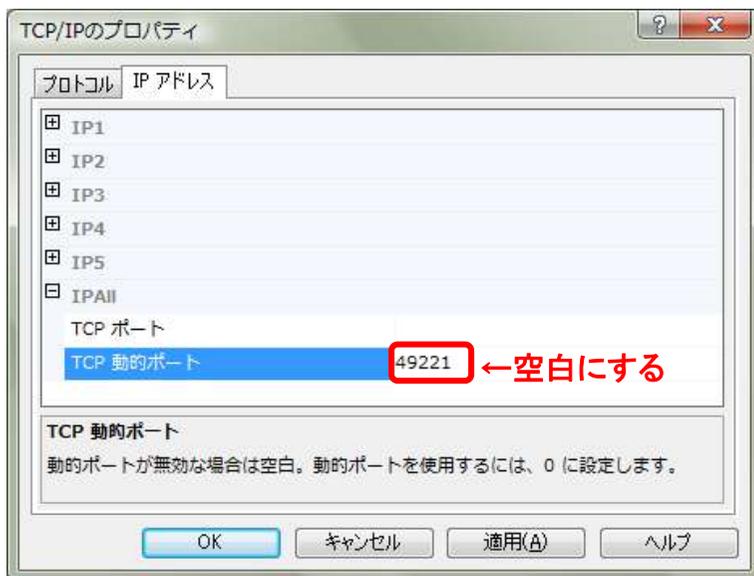
1. 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Microsoft SQL Server2019/2017/2014」から「SQL Server 構成マネージャー」を選択します。



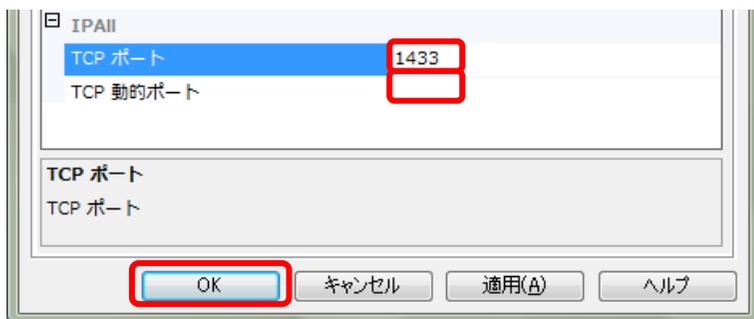
2. 「SQL Server 構成マネージャー」の「SQLServer2019/2017/2014 ネットワークの構成」の下の「KENDWEB のプロトコル」を左のツリーから選択して、右側の「TCP/IP」を右クリックして「プロパティ」を選択します。
3. このとき、「TCP/IP」とともに「名前付きパイプ」の状態も「有効」となっていることをご確認ください。「無効」の場合は右クリックして、「有効化」を行ってください。



4. 「IPアドレス」のタブから「IP/ALL」の「TCP 動的ポート」に数字が入っていることを確認して、その設定値を削除して空白の状態とします。



5. 「TCP ポート」に「1433」を入力して「OK」を選択します。



※ご注意※

他社の SQLServer と同居して使用する場合に、TCP1433 ポートを使用している場合がありますので、その際には 1435 などとして固定ポートを割り振る必要があります。この場合には、以下のファイアウォールでの例外ポートの番号も同様に更改してください。(ただし、1434 は使用しないでください。)

6. 「①TCP ポートの設定」が完了しました。
続いて「②Windows ファイアウォールの設定」へお進みください。(→P19～)

② Windows ファイアウォールの設定

TCP ポートの設定が完了しましたら「Windows ファイアウォール」の例外設定を以下の手順で行います。



ご利用しているウイルスソフト側でファイアウォールの設定をしている場合は、ウイルスソフト側で例外設定を実施してください。

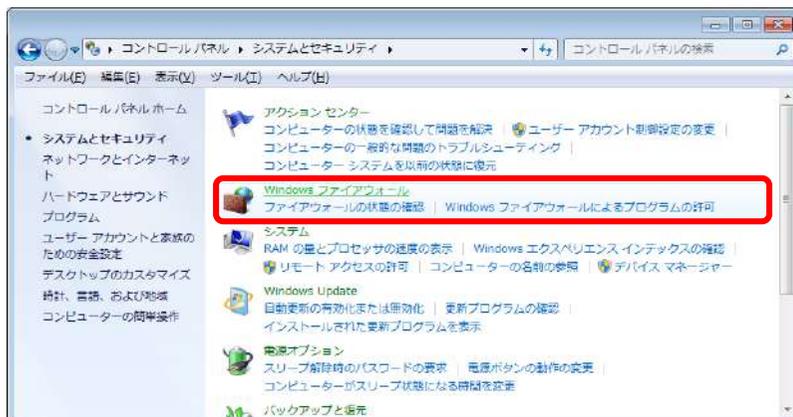
なお、ウイルスソフト側の設定に関しましては、ご購入いただいたウイルスソフト側へご確認をお願いします。

《Windows10/ Windows8.1/WindowsServer2019/2016/2012R2/2012 の場合》

1. 「スタート」-「コントロールパネル」から『システムとセキュリティ』を選択します。



2. 『Windows ファイアウォール』を選択します。



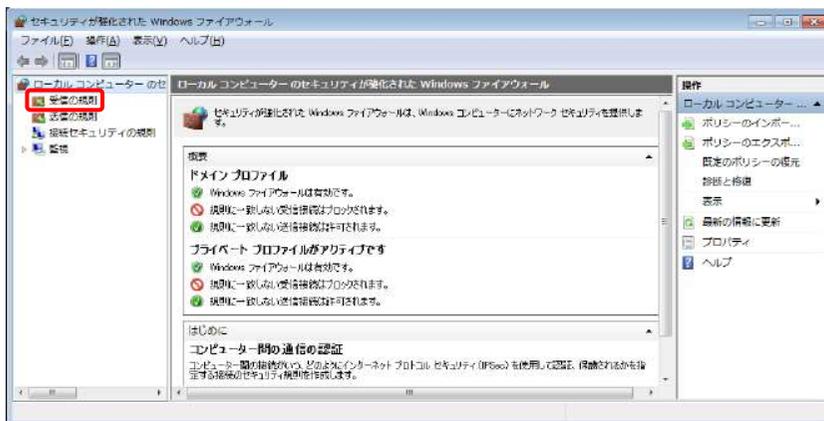
表示方法の指定によっては以下のような画面の場合もあります。



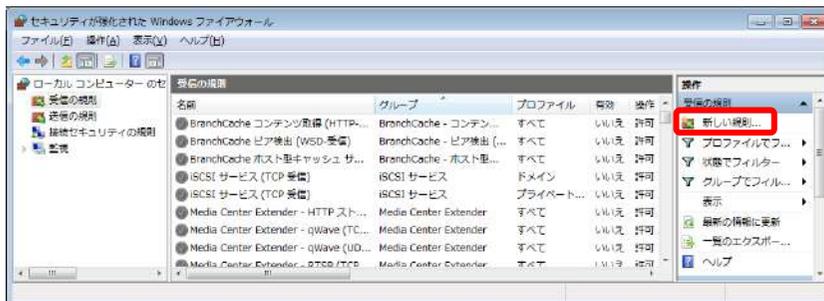
3. 『詳細設定』を選択します。



4. 右図のような画面になります。
左のツリーから『受信の規則』
を選択してください。



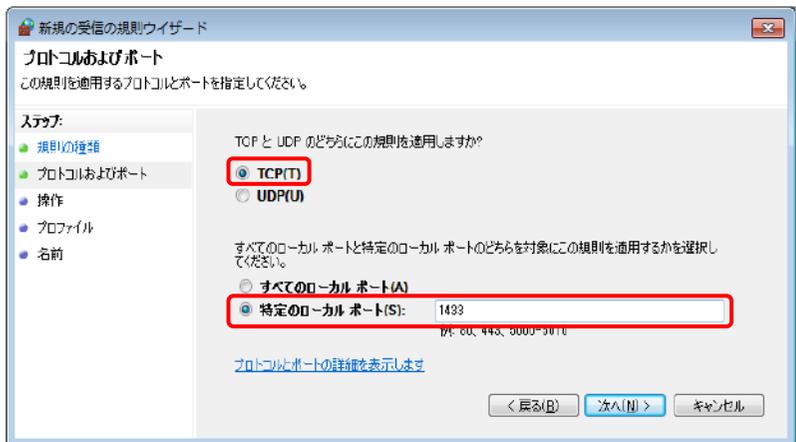
5. 『新しい規則』を選択します。



6. 【規則の種類】画面で、『ポート』を選択し、『次へ』ボタンを選択します。



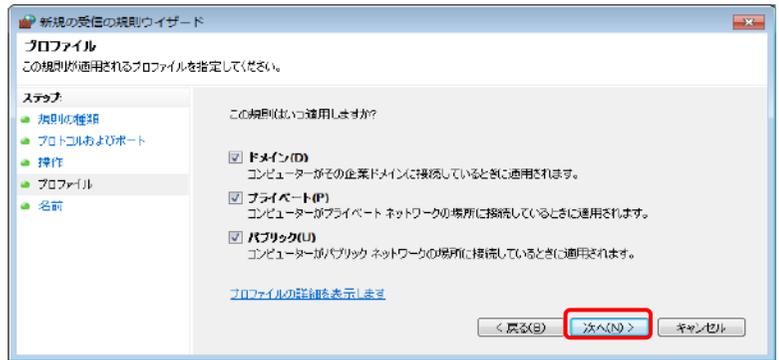
7. 【プロトコルおよびポート】画面で、『TCP』と『特定のローカルポート』を選択し、『1433』と入力します。『次へ』ボタンを選択します。



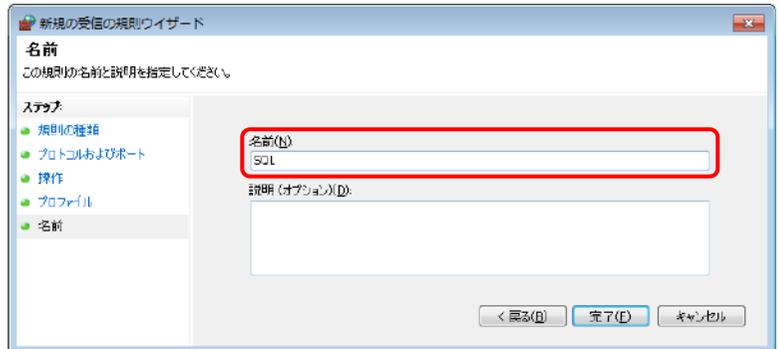
8. 【操作】画面で、『接続を許可する』を選択し、『次へ』ボタンを選択します。



9. 【プロフィール】画面で、すべての項目にチェックを付け、「次へ」ボタンを選択します。



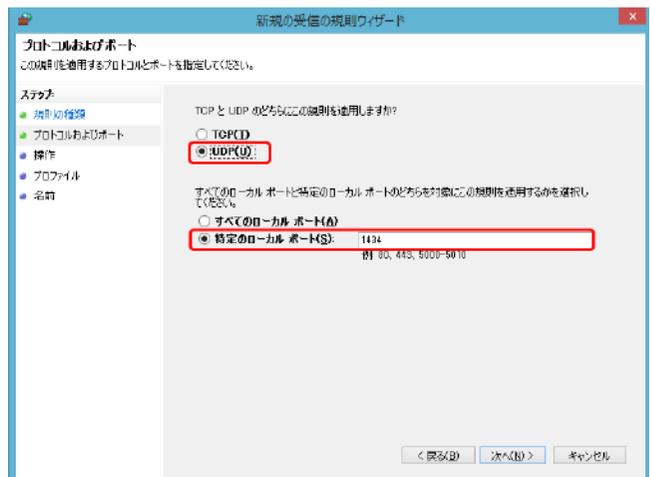
10. 【名前】画面の「名前(N):」に「SQL」と入力し、「完了」ボタンを選択します。



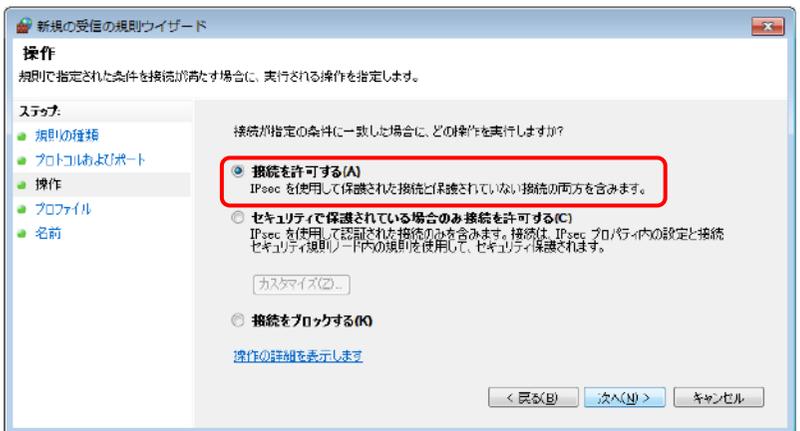
11. 新しい規則が追加されました。続けて、もう一度『新しい規則』を選択します。



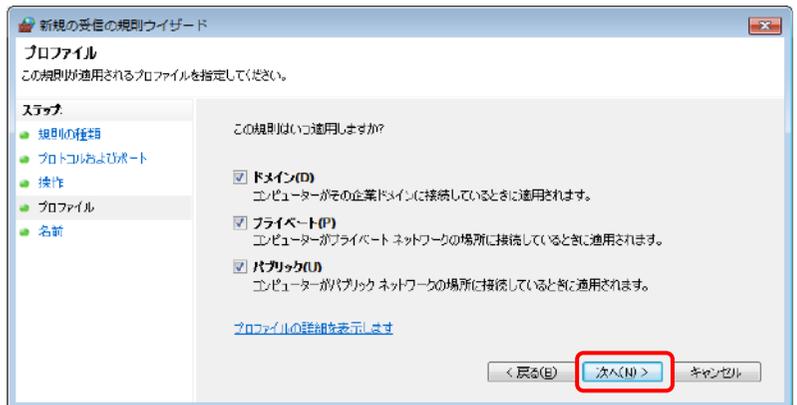
12. 手順6と同じように、【規則の種類】画面で『ポート』を選択し、「次へ」ボタンを選択します。【プロトコルおよびポート】画面で、『UDP』を選択し、『特定のローカル ポート』に[1434]と入力します。「次へ」ボタンを選択します。



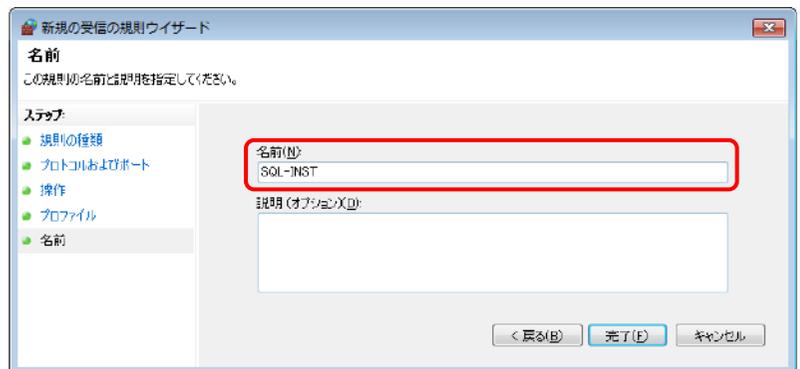
13. 【操作】画面で、『接続を許可する』を選択し、「次へ」を選択します。



14. 【プロファイル】画面で、すべての項目にチェックを付け、「次へ」ボタンを選択します。



15. 【名前】画面の「名前(N):」に「SQL-INST」と入力し、「完了」ボタンを選択します。



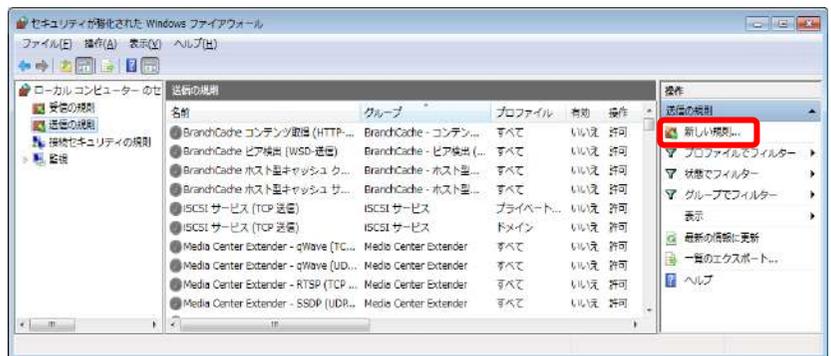
16. 新しい受信の規則が追加されました。



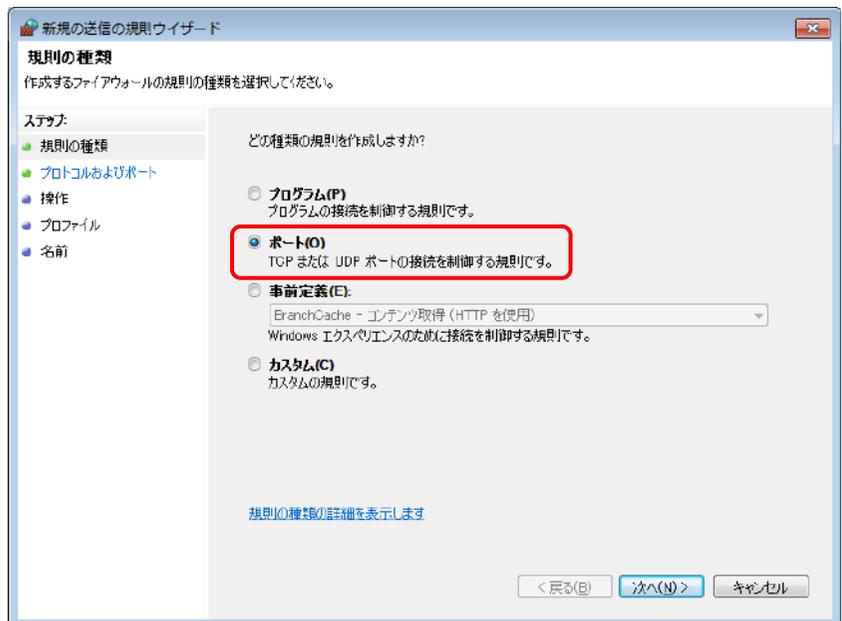
17. 次に左のツリーから『送信の規則』を選択してください。



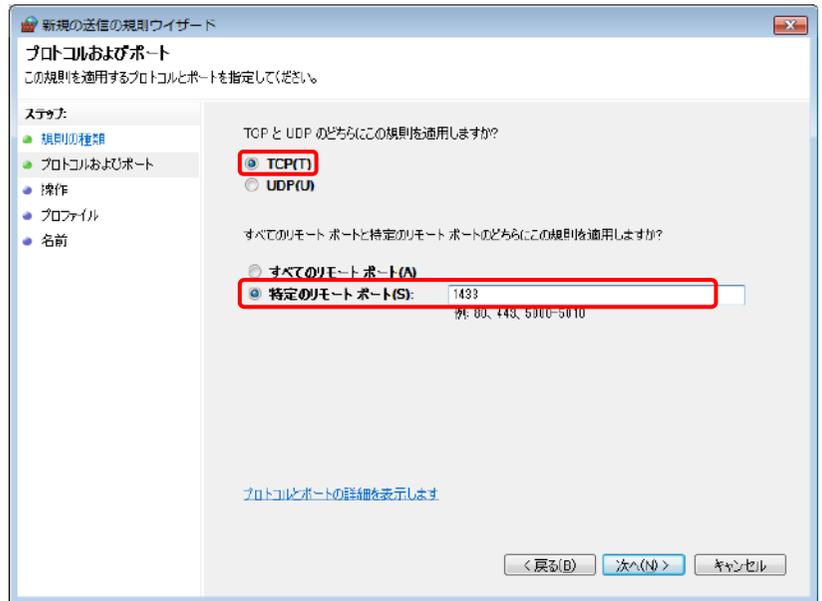
18. 『新しい規則』を選択します。



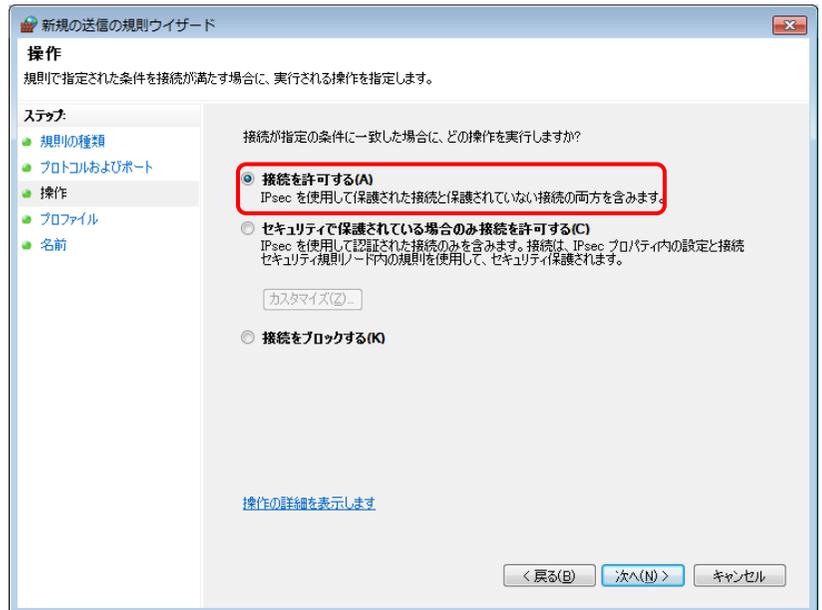
19. 【規則の種類】画面で、『ポート』を選択し、「次へ」ボタンを選択します。



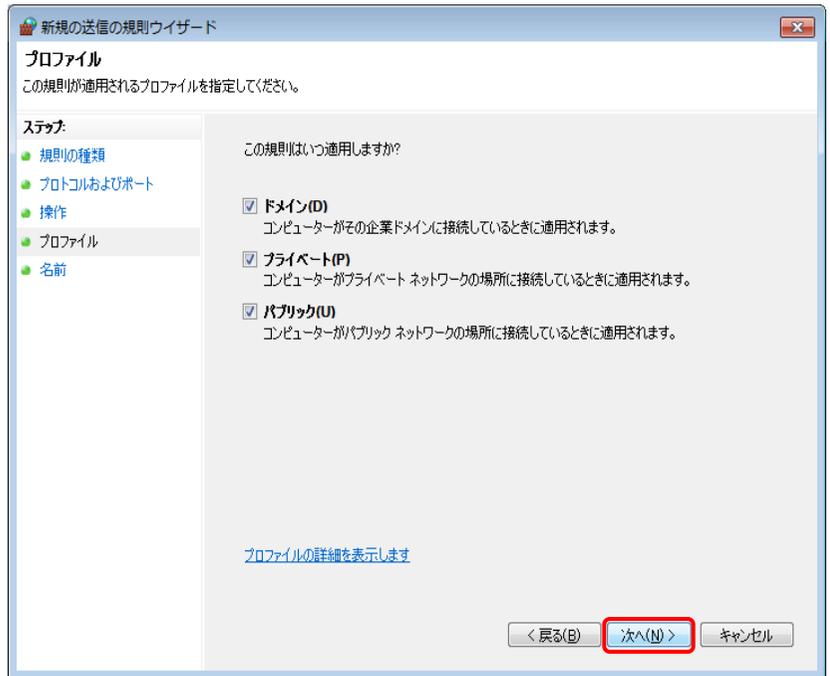
20. 【プロトコルおよびポート】画面で、『TCP』と『特定のローカルポートを選択し、[1433]と入力します。「次へ」ボタンを選択します。



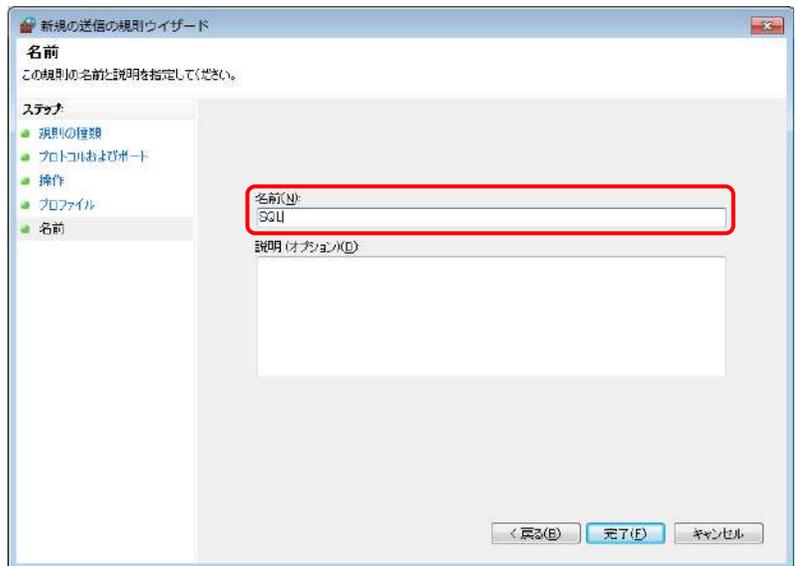
21. 【操作】画面で、『接続を許可する』を選択し、「次へ」ボタンを選択します。



22. 【プロフィール】画面で、すべての項目にチェックを付け、「次へ」ボタンを選択します。



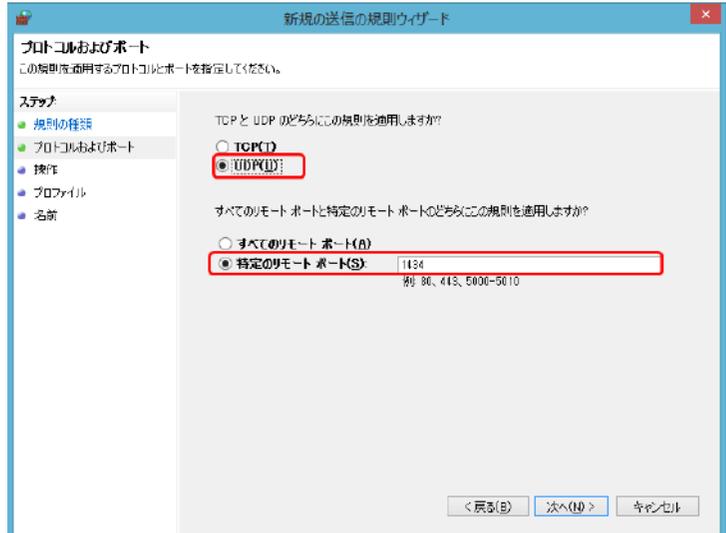
23. 【名前】画面の「名前(N):」に「SQL」と入力し、「完了」ボタンを選択します。



24. 新しい規則が追加されました。
続けて、もう一度『新しい規則』を選択します。



25. 手順18と同じように、【規則の種類】画面で『ポート』を選択し、「次へ」ボタンを選択します。【プロトコルおよびポート】画面で、『UDP』を選択し、『特定のローカルポート』に[1434]と入力します。「次へ」ボタンを選択します。



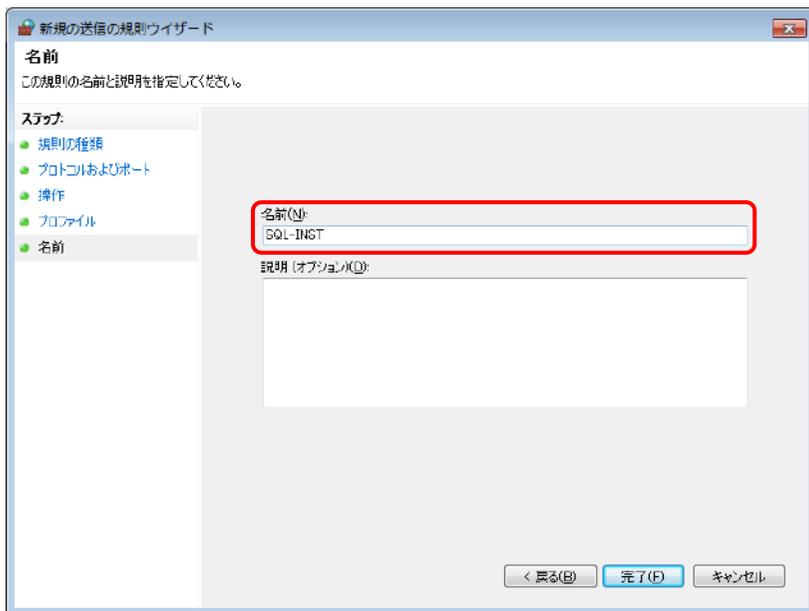
26. 【操作】画面で、『接続を許可する』を選択し、「次へ」を選択します。



27. 【プロファイル】画面で、すべての項目にチェックを付け、「次へ」ボタンを選択します。



28. 【名前】画面の「名前(N):」に「SQL-INST」と入力し、「完了」ボタンを選択します。



29. 新しい送信の規則が追加されました。これでSQLServer2019/2017/2014への接続が可能です。



30. 「②Windows ファイアウォール」の設定が完了しました。
「【3】基本システム新規インストール」へお進みください。(P29～)

【3】 基本システムの新規インストール

1. 「『どっと原価 NEO シリーズ』 インストール DVD」をセットしてください。

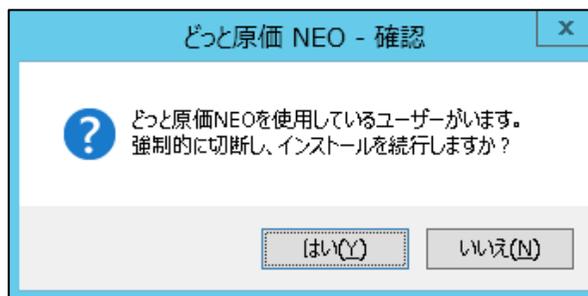
自動的に「どっと原価 NEO セットアップ」画面が起動します。
 ※自動的にセットアップ画面が起動しない場合は、DVD 中の「NEO_Install.vbs」をクリックして起動ください。

2. 次に、『どっと原価 NEO シリーズ』のインストールボタンを選択します。



他のアプリケーションでデータベースを使用していない場合は、そのまま手順3. へお進みください。

他のアプリケーションですでにデータベースを使用していて業務をストップできない場合は、右図の画面で「いいえ」を選択します。「はい」を選択すると、強制的にデータベースをストップして処理を進めることになります。



3. 「次へ」を選択します。



4. ユーザー情報の画面が表示されますので、「ユーザー名」、「会社名」を入力します。
ユーザー名、会社名は全角換算64文字以内で入力してください。
入力が終わりましたら「次へ」を選択します。

5. ライセンス番号の登録画面が表示されますので、別紙「ライセンス表」に記載されております「お客様番号」、「ライセンス番号」を入力してください。
(半角で入力を行います。)
構成で「ネットワーク版」または「スタンドアロン版」を選択してください。
入力・選択が終わりましたら「次へ」を選択します。
ネットワーク版を選択した場合、共有フォルダが自動で作成されます。

6. SQLServer2019/2017/2014 へのインスタンス、認証モードの設定を行います。
認証モードが0(SQLServer 認証)の場合は手順7. の画面へ、
認証モードが1 (Windows 認証)の場合は手順8. の画面に進みます。



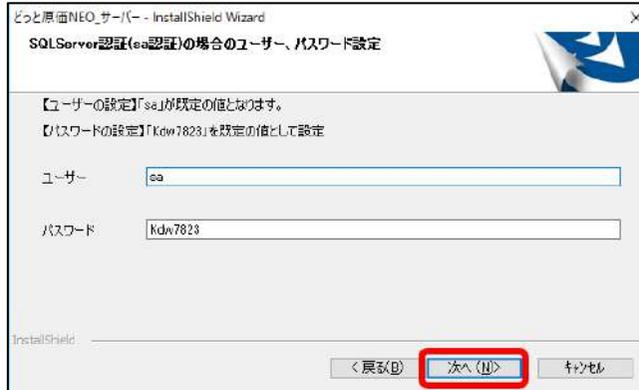
クラウド環境などでは、「既定のインスタンス」がインストールされている場合があります。
「既定のインスタンス」を使用する場合は、インスタンスを「空欄」にしてください。

インストール媒体	データベース種類	インスタンス	認証モード
『どっと原価 NEO シリーズ』 SQLServer インストール DVD	SQLServer2019 (推奨) /2017/2014Express	KENDWEB	0 (SQLServer 認証)
SQLServer2019/2017/2014 インストール CD から (正規版別途購入の場合など)	DB をインストールした設定内容に従いインスタンス、認証モードを修正してください。	KENDWEB (通常)	0 (SQLServer 認証) or 1 (Windows 認証)

7. SQLServer2019/2017/2014 へのユーザー、パスワードの設定を行います。

「次へ」を選択して、手順8. の画面に進みます。

インストール媒体	データベース種類	ユーザー	パスワード
『どっと原価 NEO シリーズ』 SQLServer インストール DVD	SQLServer2019（推奨） 2017/2014Express	s a	Kdw7823(※)
SQLServer2019/2017/2014 インストール CD から (正規版別途購入の場合など)	データベースをインストールした設定内容に従い ユーザー、パスワードを修正してください。		



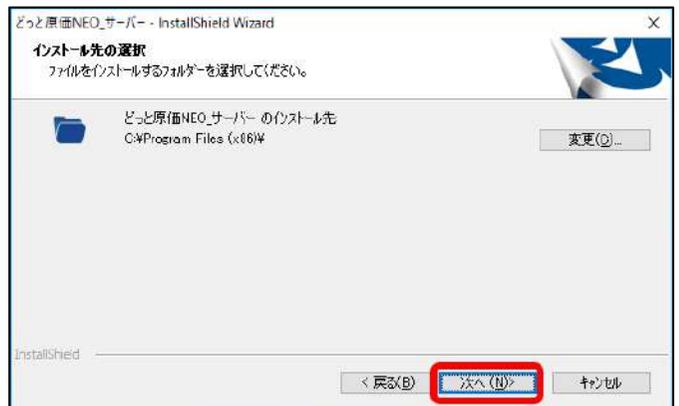
(※)Windows のパスワードポリシーが 8 桁以上の場合には、“Kdw78234”などになる場合があります。

SQLServer インストール時の【データベース エンジンの構成】で設定したパスワードを入力して下さい。

8. 『どっと原価 NEO シリーズ』をインストールするドライブを指定します。

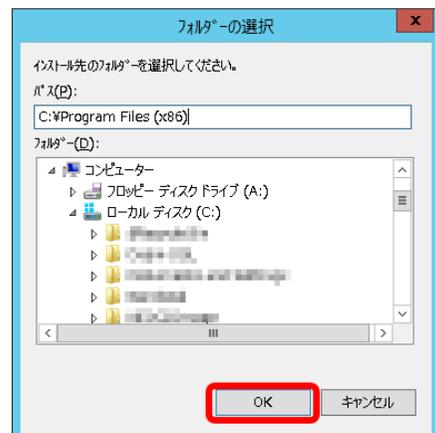
あらかじめ、こちらで指定したインストール先フォルダが表示されますので、そのままよい場合は「次へ」を選択し、手順10. へお進みください。

インストール先フォルダを変更したい場合は「変更」を押し、手順9. へ進んでください。



9. 「フォルダーの選択」画面が表示されます。

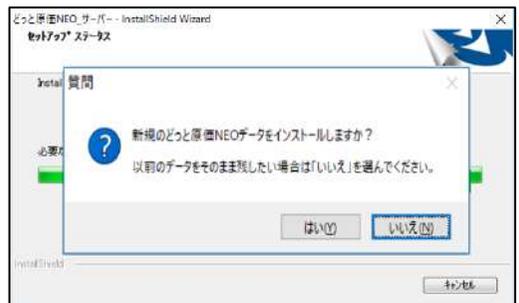
インストールしたいフォルダを選択し、「OK」を選択します。「インストール先の選択」画面に戻りますので、「次へ」を選択してください。



10. インストールの準備が完了すると、右図の画面が表示されます。
「インストール」を選択すると、インストールが始まります。

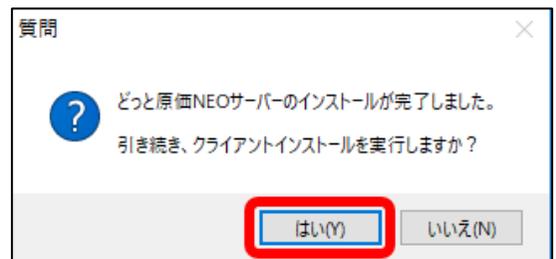


11. 以前に『どっと原価 NEO シリーズ』基本システムサーバーインストールを実施していた場合に、「どっと原価 NEO データをインストールしますか？」と質問メッセージが表示されます。
「いいえ」を選択しますと、以前のデータをそのまま残すことができます。



「はい」を選択しますと、お客様で編集されたデータが消去されてしまいますので、十分ご注意ください。

12. 『どっと原価 NEO シリーズ』基本システムサーバーインストールが完了すると、右のメッセージが表示されます。
「はい」を押し、引き続きクライアントインストールを行います。

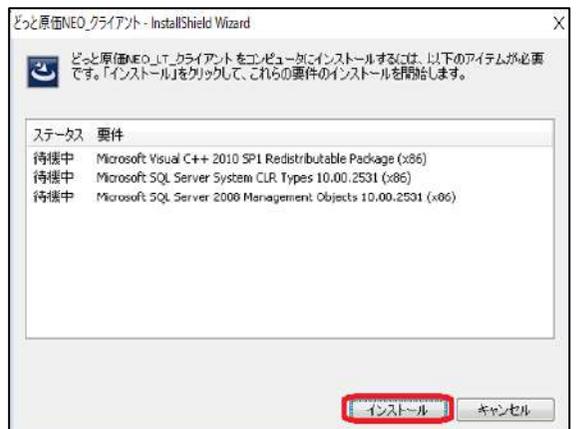


右図のように、クライアントに必要なアイテムのインストールの一覧が表示されましたら、「インストール」を押し、アイテムのインストールを行います。

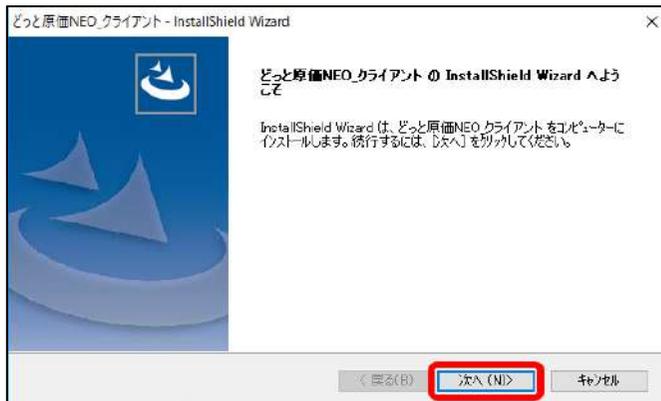
※インストールが必要なアイテムは右の3アイテムとなります。

既にインストールされているアイテムは一覧に表示されません。

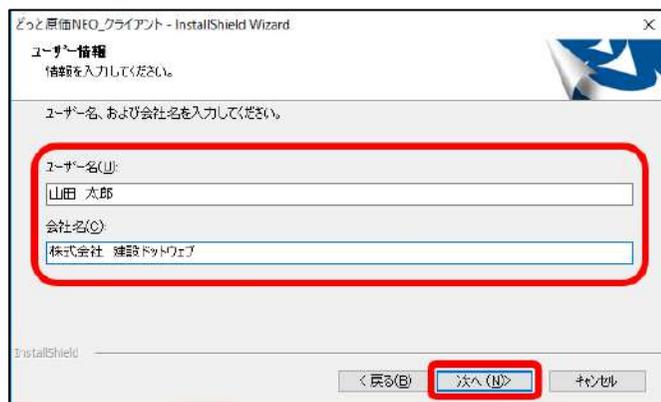
また、全てのアイテムがインストールされている場合、この画面は表示されません。



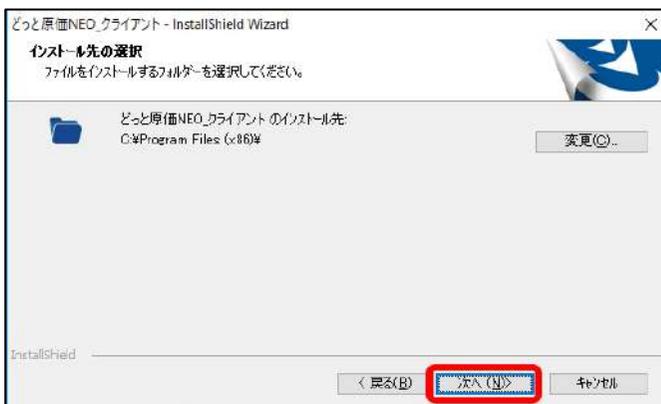
13. アイテムのインストールが終了すると、『どっと原価 NEO シリーズ』のクライアントインストールに移ります。
- 右図の画面が表示されましたら、「次へ」を選択すると、インストールが始まります。



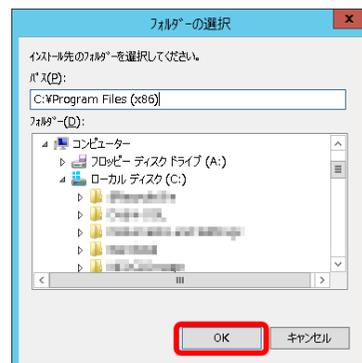
14. サーバーインストール同様、ユーザー情報の画面が表示されますので、「ユーザー名」、「会社名」を入力します。
- ユーザー名、会社名は全角換算64文字以内で入力してください。
- 入力が終わりましたら「次へ」を選択します。



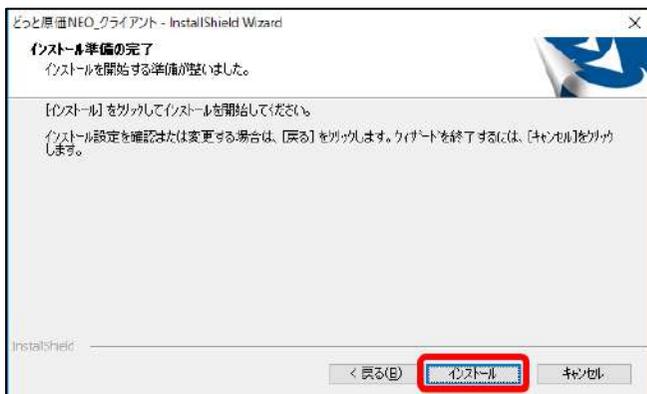
15. 『どっと原価 NEO シリーズ』をインストールするドライブを指定します。
- あらかじめ、こちらで指定したインストール先フォルダが表示されますので、そのままよい場合は「次へ」を選択し、手順17. へお進みください。
- インストール先フォルダを変更したい場合は「変更」を選択し、手順16. へ進んでください。



16. 「フォルダの選択」画面が表示されます。
- インストールしたいフォルダを選択し、「OK」を選択します。
- 「インストール先の選択」画面に戻りますので、「次へ」を選択してください。



17. インストールの準備が完了すると、右図の画面が表示されます。
「インストール」を選択すると、インストールが始まります。



18. インストールが終了すると、
「InstallShield Wizard の完了」画面に進みます。
DVD を取り出し、「完了」を選択してコンピューターを再起動してください。



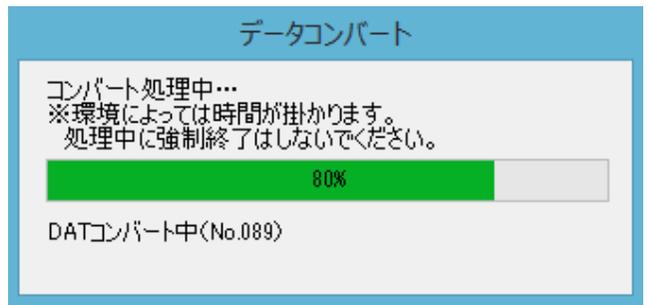
19. コンピューターを再起動したら、サーバー機の『どっと原価 NEO シリーズ』を起動します。
ユーザーID に「admin」(半角英数)と入力し、パスワードは空白のままでログオンします。



※ご注意※

インストール後、『どっと原価 NEO シリーズ』への初回ログオンは、必ずサーバー機で行って下さい。

データのコンバートがある場合、右図のようなデータコンバート画面が表示されます。



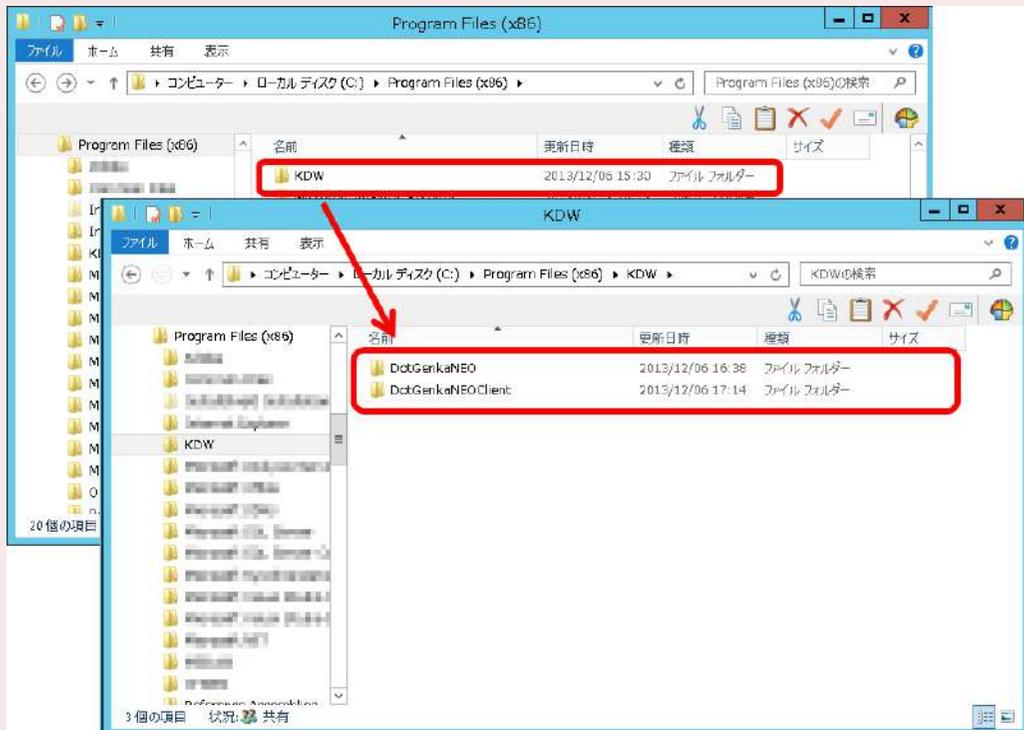
20. メニュー画面が開きましたら、『どっと原価 NEO シリーズ』新規インストールの完了です。

※新サーバー機にインストールした『どっと原価 NEO シリーズ』のバージョンが、P2 で確認した『どっと原価 NEO シリーズ』のバージョンより古い場合はバージョンアップが必要です。「サーバーアップデート」へお進みください。(→P42～)

※バージョンアップが必要ない場合は「データ復旧」へお進みください。(→P51～)

※複数のパソコンで『どっと原価 NEO シリーズ』を使用される場合は、「【5】環境設定 2(LAN 追加ライセンスで別のコンピューターから使用する場合)」へお進みください。(→P39～)

手順5. でネットワーク版を選択した場合、基本システムのインストールを行うと、手順8. で指定したフォルダ内の KDW フォルダが自動で共有設定されます。





※ご注意※

『どっと原価 NEO シリーズ』のセットアップ完了後にコンピューター名を変更すると、『どっと原価 NEO シリーズ』が起動できなくなりますので、ご注意ください。

※コンピューター名を変更したい場合には、次の手順で行ってください。

- 1)『どっと原価 NEO シリーズ』のバックアップを行う。
- 2)『どっと原価 NEO シリーズ』のアンインストールを行う。
- 3)コンピューター名を変更する。
- 4)再度、『どっと原価 NEO シリーズ』をインストールします。
- 5)手順 1)でバックアップを行った、『どっと原価 NEO シリーズ』とその他の製品のデータを復旧します。

【4】 環境設定 1 (Windows へのログインユーザーにパスワードを設定しない場合)

クライアントの Windows へのログインユーザーのパスワードの設定で「空のパスワード」を許可する。

《OS》

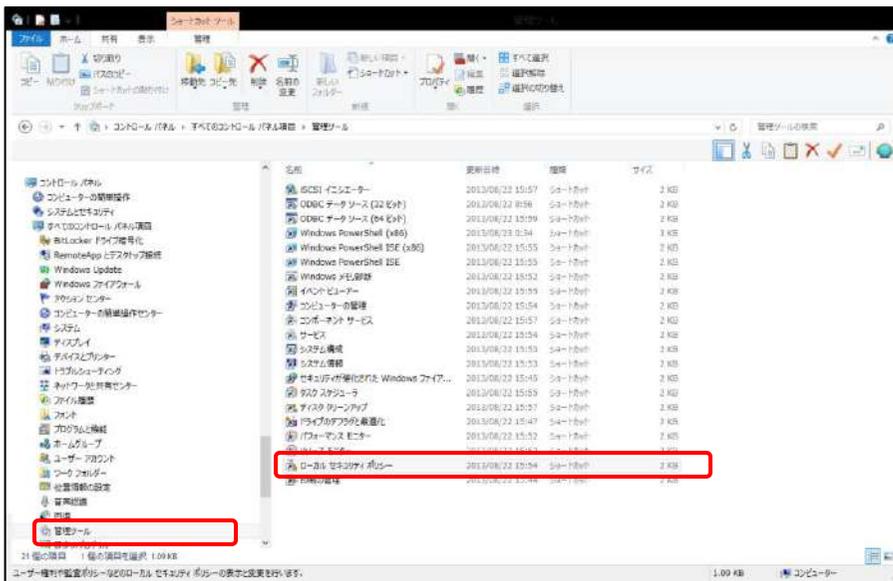
Windows10/Windows8.1/ Windows Server2019/2016/2012R2/2012/

1. ローカルセキュリティ設定を変更する必要があります。

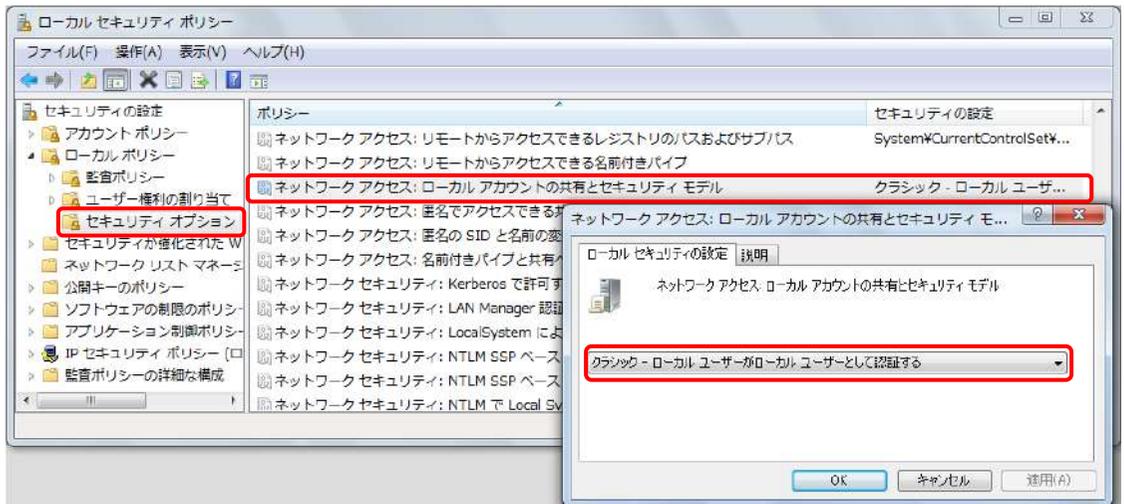
「スタート」-「コントロールパネル」-「管理ツール」を開きます。



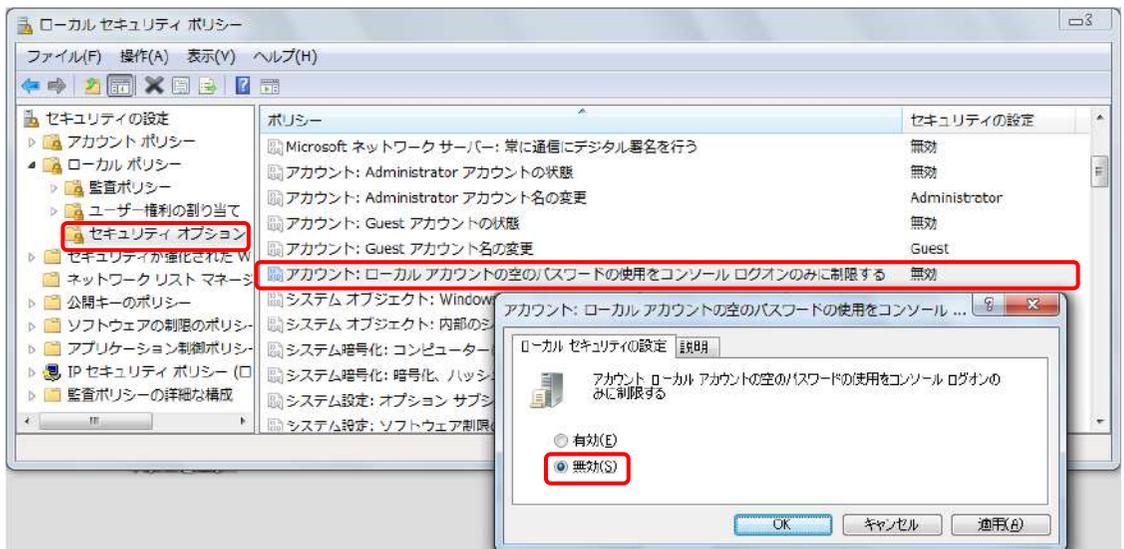
2. 「管理ツール」-「ローカル セキュリティポリシー」を開きます。



3. 「セキュリティの設定」-「ローカルポリシー」-「セキュリティオプション」の
「ネットワークアクセス: ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル」の内容を
「クラシックローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する」に設定してください。



4. クライアントの Windows ログインの際にユーザーパスワードを設定せずに運用されている場合には、
「セキュリティの設定」-「ローカルポリシー」-「セキュリティオプション」の
「アカウント: ローカルアカウントの空のパスワードの使用をコンソール ログオンだけに制限する」を「無効」にしてく
ださい。

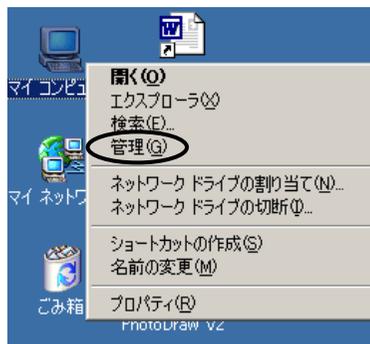


【5】 環境設定 2 (LAN 追加ライセンスで別のコンピューターから使用する場合)

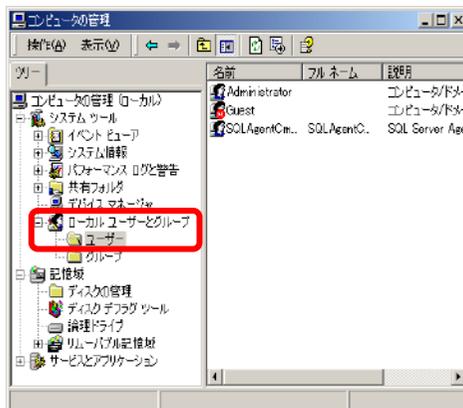
LAN クライアントのユーザー設定

Workgroup 環境の場合

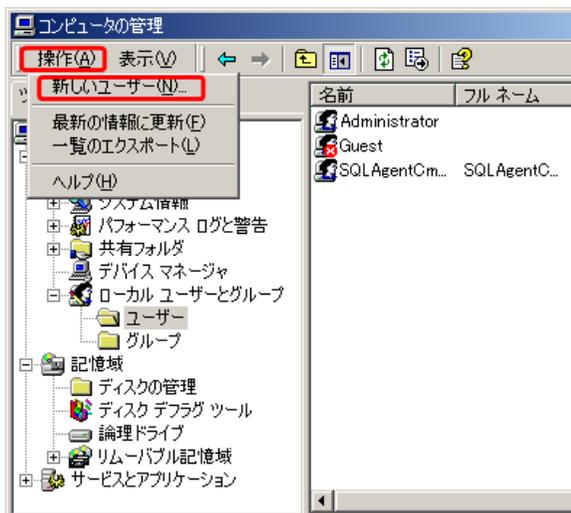
1. マイコンピュータの上で右クリックして、「管理」を選択します。



2. 画面左の、「ローカルユーザーとグループ」の「ユーザー」を選択します。

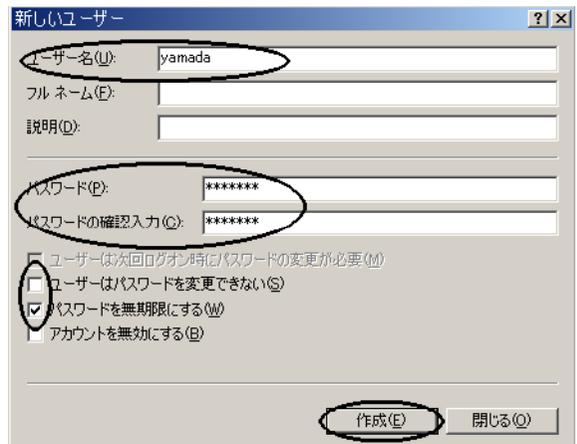


3. メニューの 操作 - 新しいユーザー を選択します。



4. 「ユーザー名」と「パスワード」、「パスワード確認入力」を入力します。(ここで入力するユーザー名、パスワードは、各端末 Windows 起動時に通常入力しているものを、入力します。)

「ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要」のチェックを外し「パスワードを無期限にする」にチェックを付けます。設定しましたら、「作成」をします。この作業を、各クライアント分行います。



5. LAN クライアントのユーザー設定が完了しましたら、「基本システム 新規インストール」へお進みください。(P エラー! ブックマークが定義されていません。～)

Domain 環境の場合

※親機の OS が Windows Server 2019/2016/2012R2/2012 の時は、Domain 環境の場合があります。

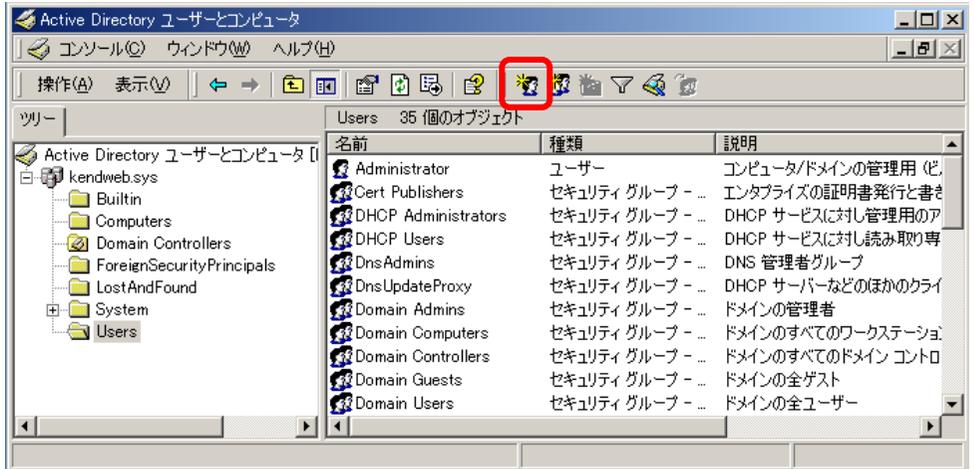
1. スタート → コントロールパネル → 管理ツール を選択します。



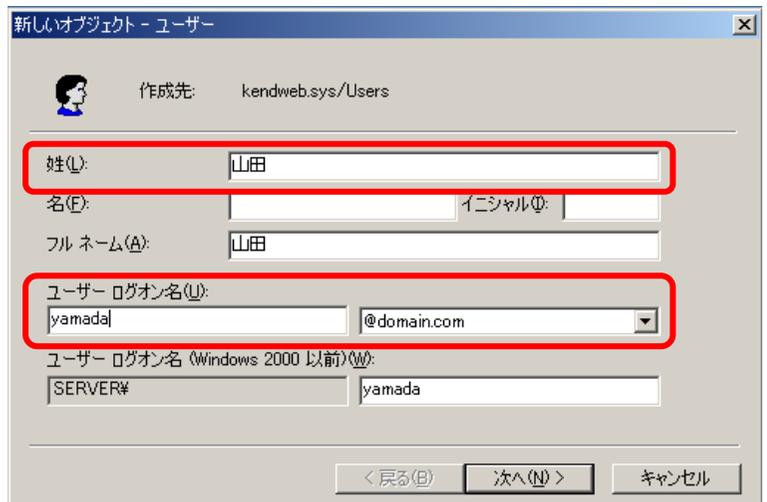
2. 「Active Directory ユーザーとコンピューター」を選択します。



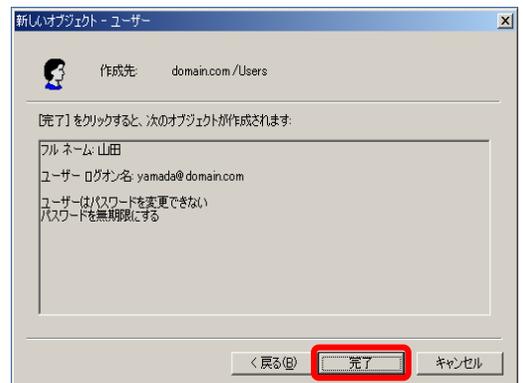
3. 新規ユーザー作成のボタンを選択します。



4. 「ユーザー名」と「パスワード」、
「パスワード確認入力」を
入力します。



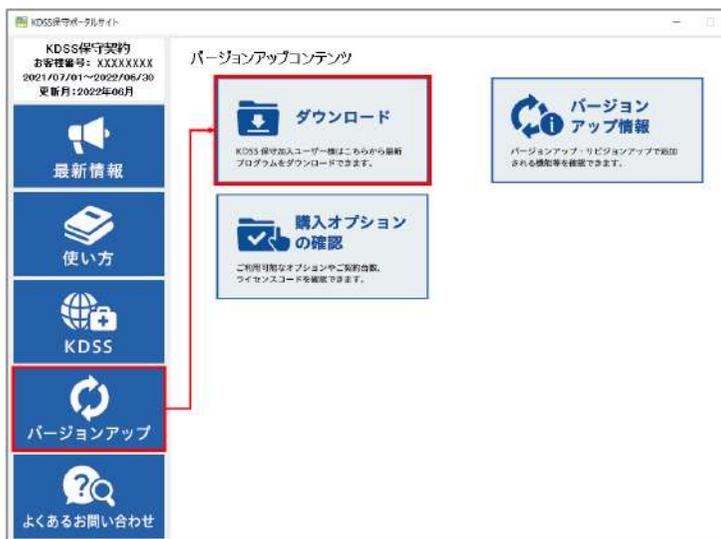
5. この作業を、各クライアント分行います。



【1】 アップデート版ダウンロード

新サーバー機にインストールした『どっと原価 NEO シリーズ』をアップデートする手順です。弊社ホームページから最新のアップデート版をダウンロードして行います。

1. 『どっと原価 NEO シリーズ』を起動し、会社データにログインします。
2. 「ポータルサイト」の「バージョンアップ」-「ダウンロード」をクリックし、弊社ホームページにアクセスします。
(※Ver3.4 以前をご利用の場合は、「ヘルプ」-「建設ドットウェブ Web Site」-「建設ドットウェブホームページ」をクリック→ホームページ上の「ご利用のお客様」をクリックします)

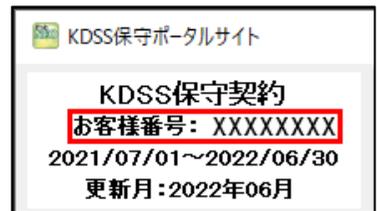


3. ホームページ上ホームページ上で、お客様番号とパスワードを入力し、ログインします



※お客様番号については、「ポータルサイト」をご確認頂くか、初回出荷物に送付されております『KDSS 保守契約認定証』の「お客様番号」をご確認ください。

(※Ver3.4 以前をご利用の場合は、『どっと原価 NEO シリーズ』の「ヘルプ」-「バージョン情報」からお客様番号を確認できます)



初回ログイン時のパスワードは、お客様番号と同じです。2 回目以降、任意でパスワードを変更できます。

4. KDSS 保守契約ユーザー様専用ページにログイン後、直近日付の「最新版ダウンロードサイト【VerX.XX】をクリックします。

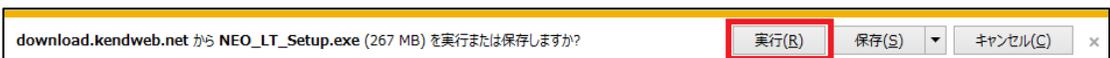


5. 「最新版 Ver.X.X.XXXX」の商品名が『どっと原価 NEO シリーズ』の「クリックしてダウンロード」を選択してください。



6. 次に、「download.kendweb.net から NEO_LT/ST/EX_Setup.exe を実行または保存際ますか？」のメッセージが表示されますので、「実行」選択します。

※お使いのブラウザによって、メッセージが表示されない場合があります。



「実行」する前に、全てのパソコンでどっと原価 NEO シリーズが終了していることを確認してください。



最新版ダウンロードがうまくいかない場合は？

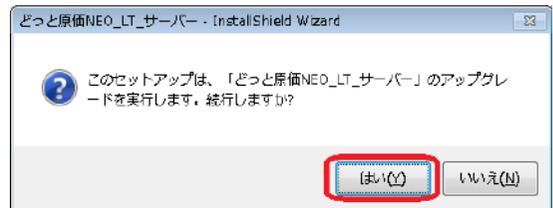
セキュリティ設定によってダウンロードファイルが実行できない場合があります。

詳しくは、「補足. セキュリティ設定により警告メッセージが出る場合 (p.47)」をご確認ください。

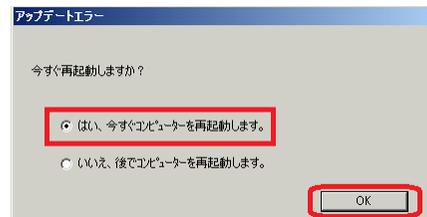
【2】 基本システム アップデート

サーバー機のアップデート及びデータコンバートが完了するまで、その他のパソコンでどっと原価 NEO シリーズを起動しないようご注意ください。

1. 「『どっと原価 NEO シリーズ』 サーバー」のアップデートの実行を確認する画面が表示されますので、「はい」を選択してください。

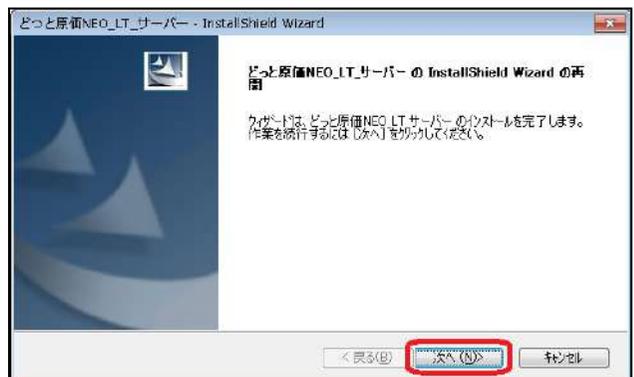


下記の画面が表示された場合は、PC を再起動してください。

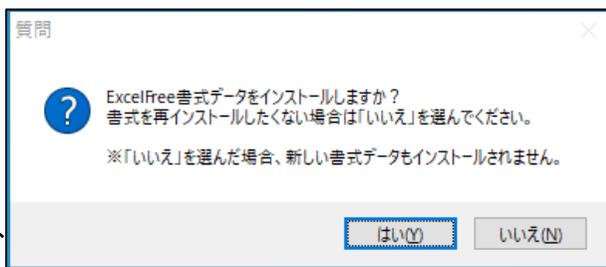


再起動後は、手順 1 へ戻り、再度インストールを実施します。

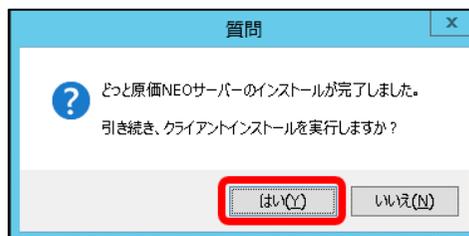
2. 「『どっと原価 NEO シリーズ』 サーバーの InstallShield Wizard の再開」と表示されましたら、「次へ」を選択してください。



3. サーバーデータのコンバート後に、ExcelFree 書式（弊社提供の書式）をインストールするかどうかの確認メッセージが表示されます。アップデートにて追加された書式をインストールする場合は、「はい」を選択してください。現在使用している書式以外、追加したくない場合は、「いいえ」を選択してください。



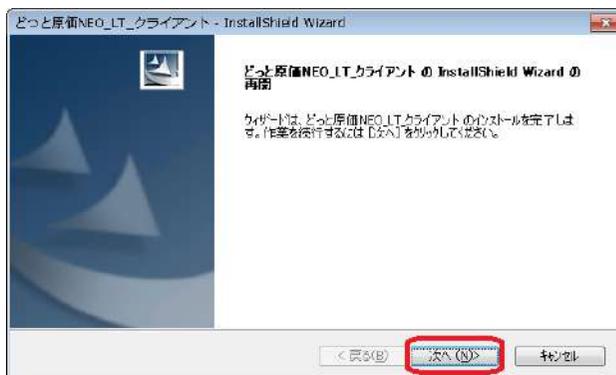
4. アップデートが完了すると、右のメッセージが表示されます。「はい」を押し、引き続きクライアントのアップデートを行います。



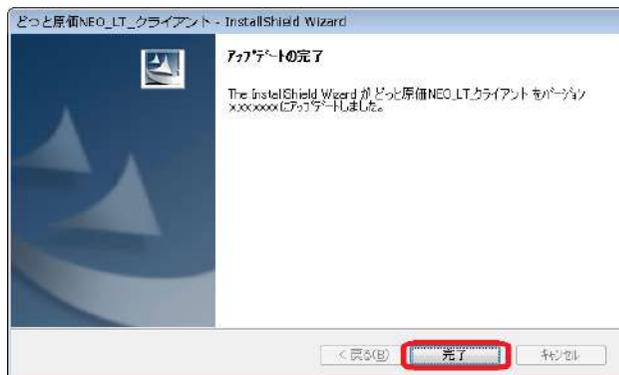
5. 「『どっと原価 NEO シリーズ』クライアント」のアップデートの実行を確認する画面が表示されますので、「はい」を選択してください。



6. 「『どっと原価 NEO シリーズ』クライアントの InstallShield Wizard の再開」と表示されましたら、「次へ」を選択してください。



7. 「アップデートの完了」と表示されましたら、「完了」を選択してください。

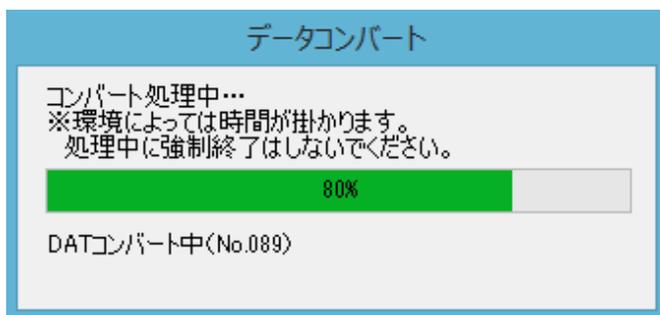


8. インストールが完了しましたら、『どっと原価 NEO シリーズ』を起動し、ログオンします。

インストール後、『どっと原価 NEO シリーズ』への初回ログオンは、必ずサーバー機で行ってください。



データのコンバートがある場合、右図のようなデータコンバート画面が表示されます。



この1台の処理が終わるまで、他のパソコンのどっと原価 NEO シリーズは使用しないでください。

メニュー画面が開きましたら、サーバー機の『どっと原価 NEO シリーズ』基本システム アップデートの完了です。続いて「データ復旧」へお進みください。(P51～)

【3】 補足. セキュリティ設定により警告メッセージが出る場合

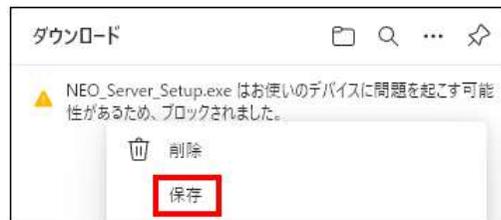
IE(インターネットエクスプローラー)を使用している場合は、セキュリティ設定によって、どっと原価 NEO シリーズの実行ファイルをダウンロードした際に警告メッセージが出る可能性があります。以下をお試しください。

① Microsoft Defender SmartScreen による制御

「NEO_Server_Setup.exe はお使いのデバイスに問題を起こす可能性があるため、ブロックされました。」というメッセージが表示された場合は、メッセージの右側にカーソルをあわせ、「...」をクリックします。



「保存」をクリックします。



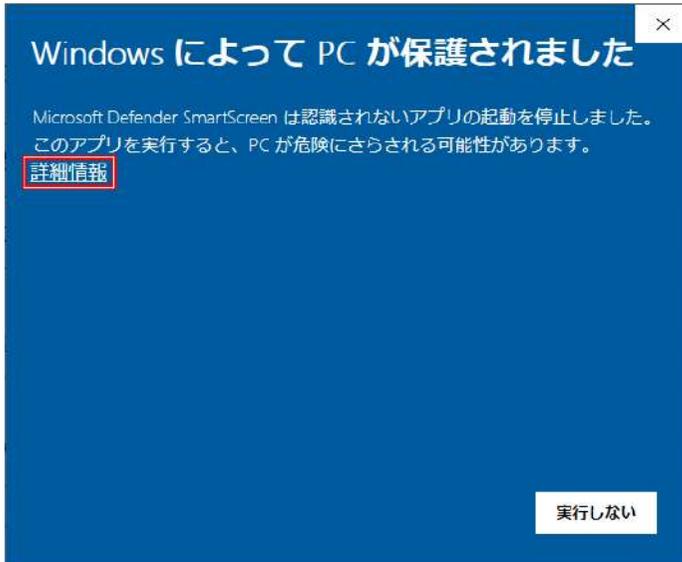
「詳細表示」をクリックし、「保持する」をクリックします。



ダウンロードが完了したら、「ファイルを開く」をクリックします。

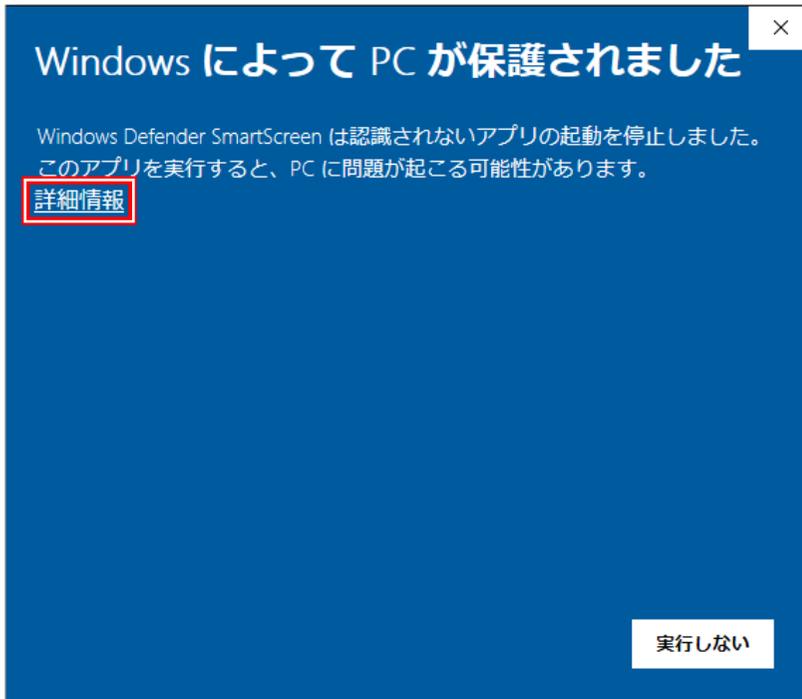


「Windows によって PC が保護されました」というメッセージが表示されるので、「詳細情報」をクリックし、「実行」をクリックします。



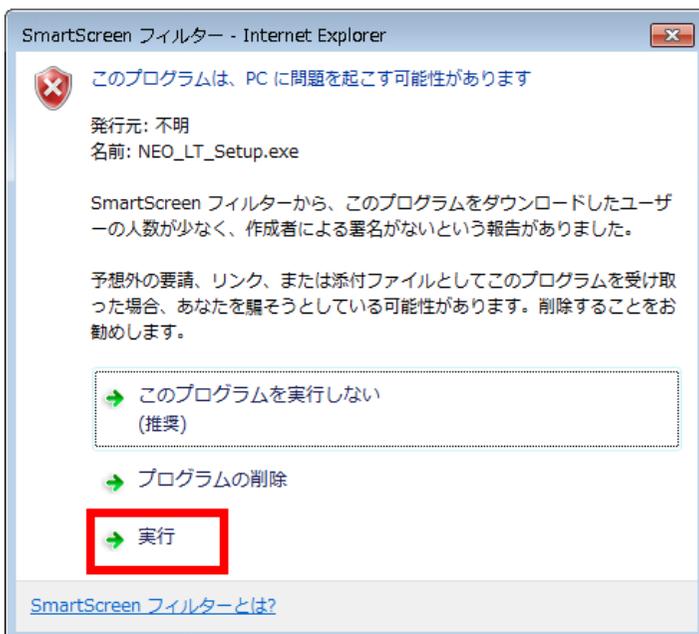
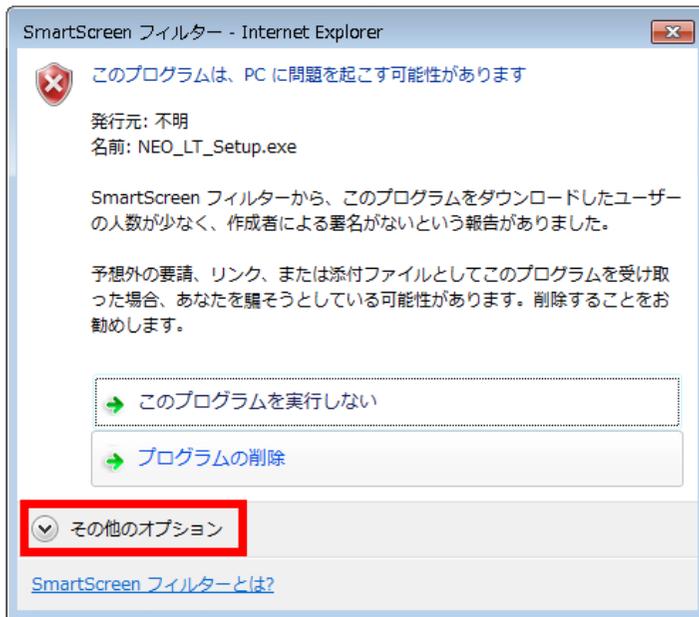
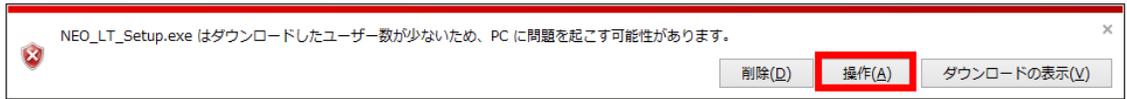
② Windows Defender SmartScreen

「Windows によって PC が保護されました」というメッセージが表示された場合は、「**詳細情報**」をクリックし、「**実行**」をクリックしてください。



③ SmartScreen Application Reputation

「NEO_LT/ST/EX_Setup.exe はダウンロードしたユーザー数が少ないため、PC に問題を起す可能性があります。」というメッセージが表示された場合は、「操作」をクリック⇒「その他のオプション」をクリック⇒「実行」をクリックしてください。

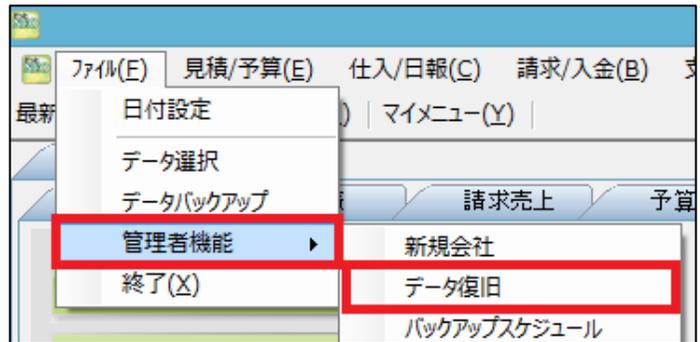


V. データ復旧

【1】 データ復旧（バックアップデータから復旧する）

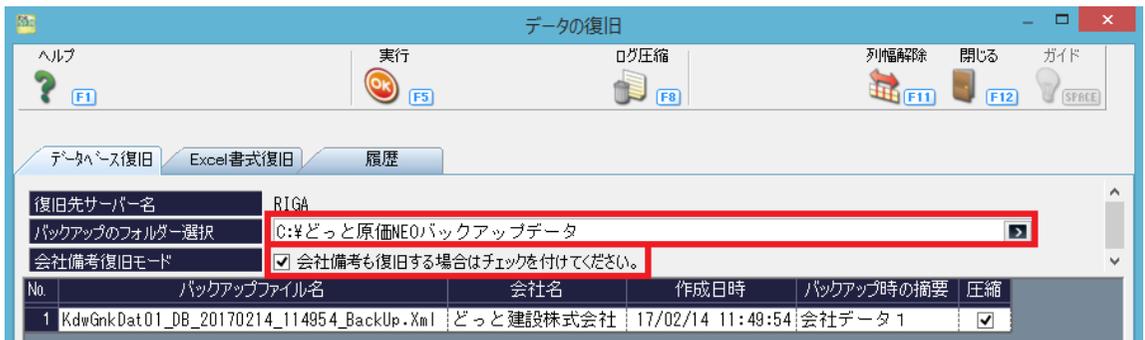
- 『どっと原価 NEO シリーズ』インストール後にコンピューターを再起動し、『どっと原価 NEO シリーズ』を起動します。
- データを復旧したい会社データにログインします。

- 「ファイル」-「管理者機能」-「データ復旧」を選択します。

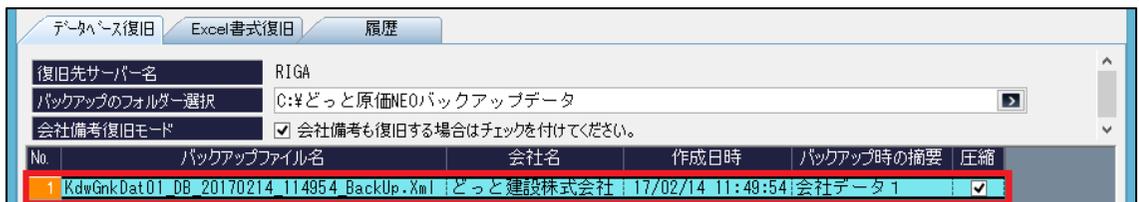


- 「データ復旧」画面の「データベース復旧」タブの「バックアップのフォルダー選択」で P2 で作成したバックアップデータの保存先フォルダーを選択します。

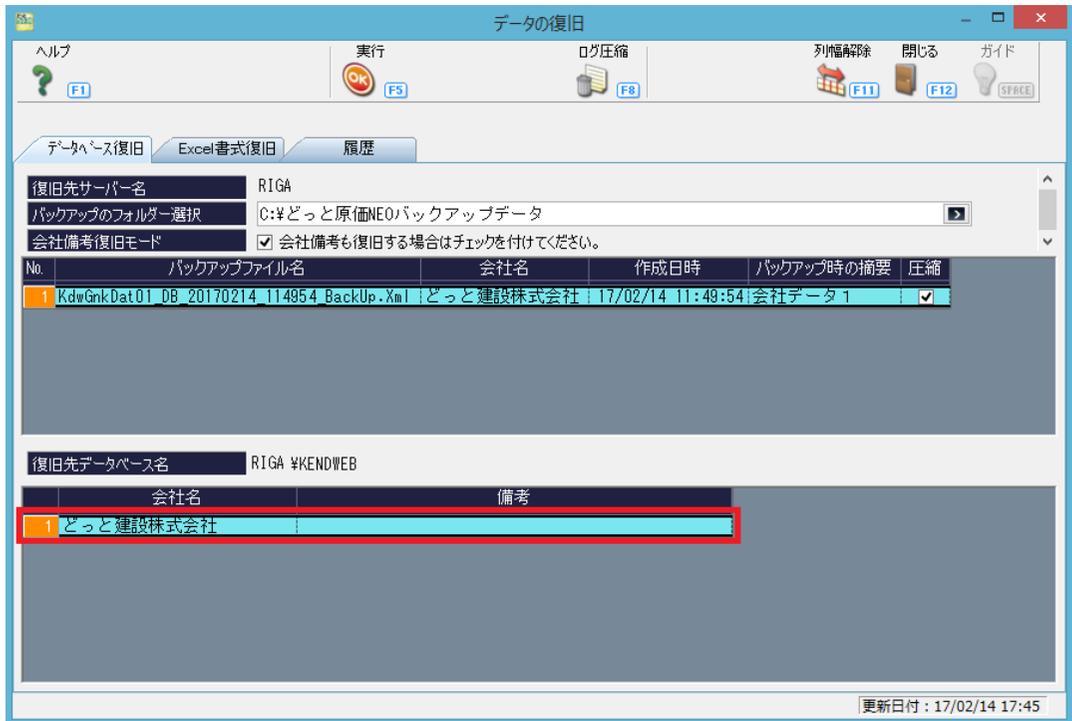
会社の備考欄も復旧する場合は、「会社備考復旧モード」にチェックをつけます。



- 手順4で「バックアップのフォルダー選択」を行うと、バックアップファイルが表示されます。
復旧したいバックアップデータをクリックします。（復旧するバックアップデータが青色になります。）

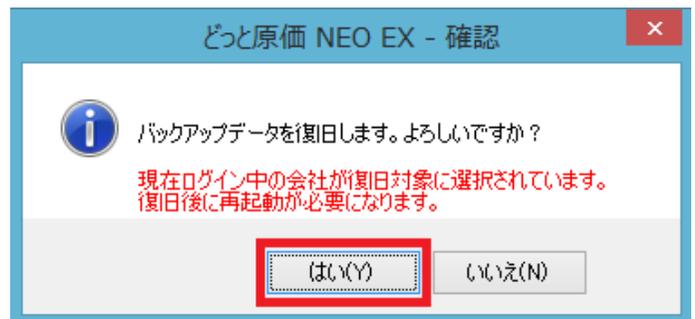


6. 「会社名」で、復旧したい会社データをクリックします。(復旧する会社データが青色になります。)



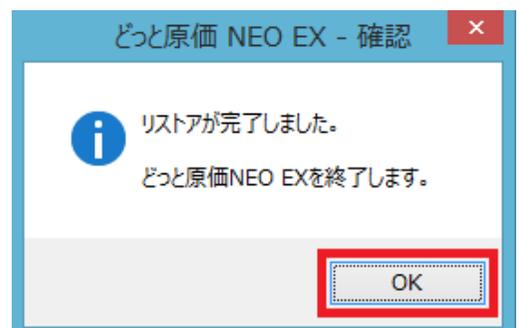
7. 「実行」を選択すると右図のメッセージが表示されます。

「はい」を選択するとデータ復旧処理が開始します。

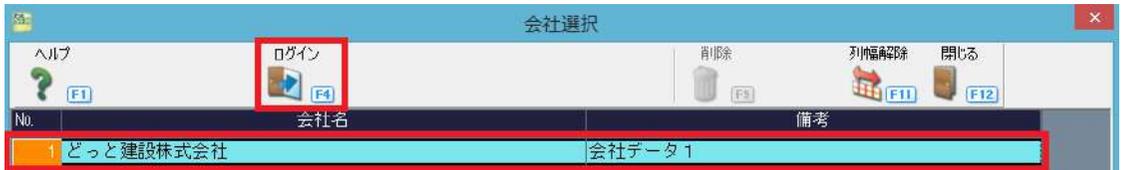


8. データ復旧が完了すると右図のメッセージが表示されます。
「OK」を選択すると、『どっと原価 NEO シリーズ』が終了します。

※ログインしている会社データにデータ復旧した場合、復旧後、どっと原価 NEO が強制終了します。



9. 『どっと原価 NEO シリーズ』にログインし、会社データが復旧されているか確認します。



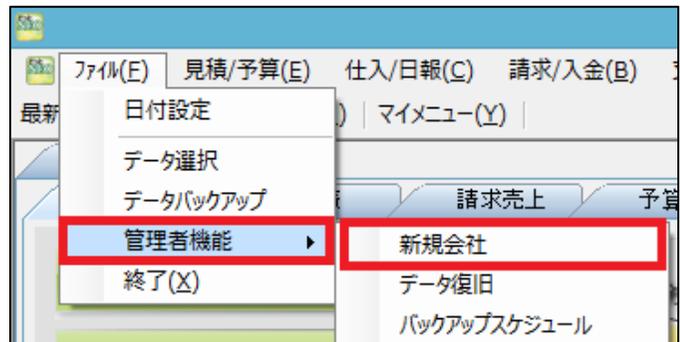
以上でデータ復旧処理は完了となります。

※会社データが1社だけの場合は「【2】Excel データ復旧」へお進みください。(P55～)

※会社データが複数ある場合は、以下の手順10へお進みください。

会社データが複数ある場合

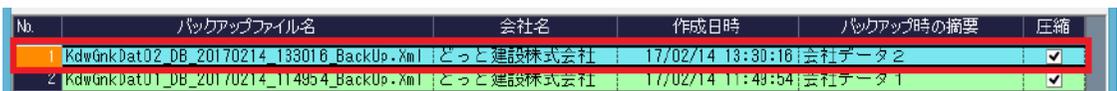
10. 「ファイル」-「管理者機能」-「新規会社」を選択します。



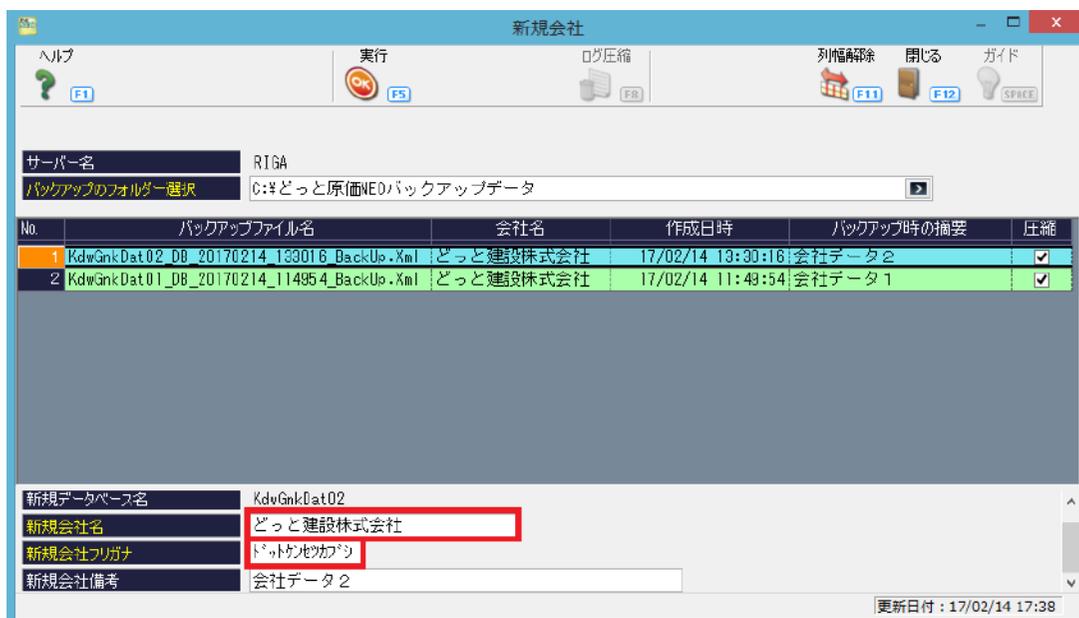
11. 「新規会社」画面の「バックアップのフォルダー選択」で P2 で作成したバックアップデータの保存先フォルダーを選択します。



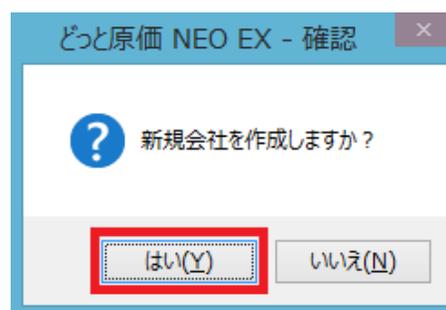
12. 手順11で「バックアップのフォルダー選択」を行うと、バックアップファイルが表示されます。
復旧したいバックアップデータをクリックします。(復旧するバックアップデータが青色になります。)



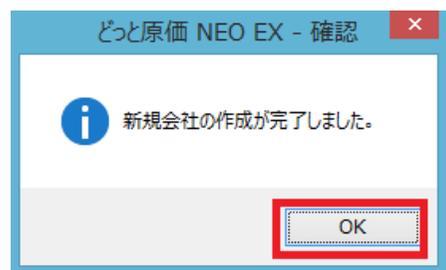
13. 復旧する会社データの会社名を「新規会社名」と「新規会社フリガナ」に入力します。



14. 「実行」を選択すると右図のメッセージが表示されます。
「はい」を選択するとデータ復旧処理が開始します。



15. データ復旧が完了すると右図のメッセージが表示されます。
「OK」を選択すると、『どっと原価 NEO シリーズ』が終了します。



16. 『どっと原価 NEO シリーズ』にログインし、会社データが復旧されているか確認します。

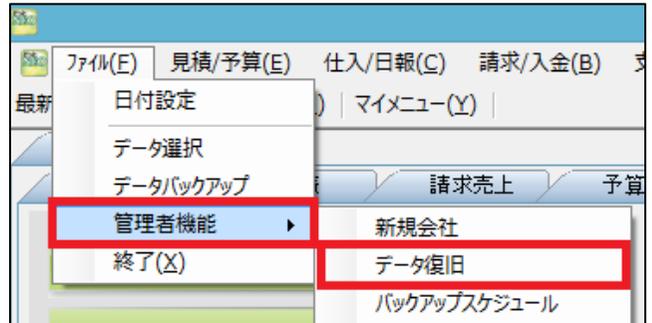


以上でデータ復旧処理は完了となります。

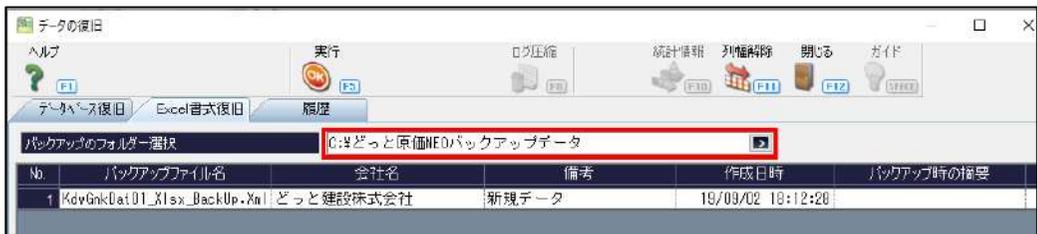
【2】 Excel データ復旧（バックアップデータから復旧する）

新サーバー機
で操作

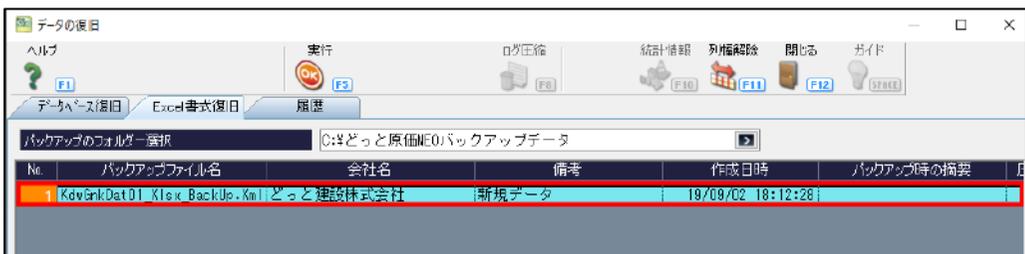
- 『どっと原価 NEO シリーズ』を起動します。
- 会社データにログインします。
- 「ファイル」-「管理者機能」-「データ復旧」を選択します



- 「データ復旧」画面の「Excel 書式復旧」タブの「バックアップのフォルダー選択」で P2 で作成したバックアップデータの保存先フォルダーを選択します。（「バックアップのフォルダー選択」を行うとバックアップファイルが表示されます。）



- 復旧したいバックアップデータをクリックします。（復旧するバックアップデータが青色になります。）



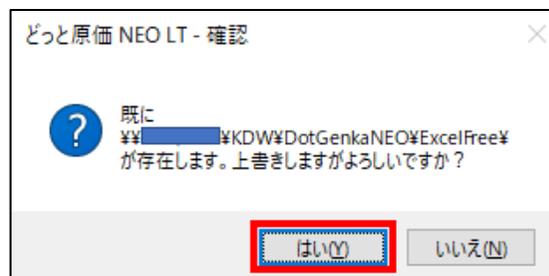
- 「実行」を選択します。



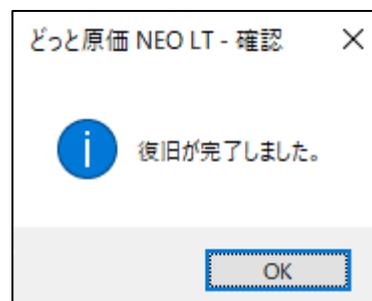
7. 右図メッセージが表示されます。
「はい」を選択すると Excel データ復旧処理が開始
されます。



8. 右図メッセージが表示されたら「はい」を選択します。



9. Excel データ復旧が完了すると右図メッセージが表示されます。
「OK」を選択します。



10. 作成した書式が復旧されているか確認します。

以上で Excel データ復旧処理は完了となります。

※会社データが複数ある場合も Excel 書式の復旧は 1 回行えば
全ての会社データで、復旧した Excel 書式をお使いいただけます。

VI. クライアント アンインストール&インストール



(クライアント機が複数台ある場合は各 PC で以下の手順を行ってください。)

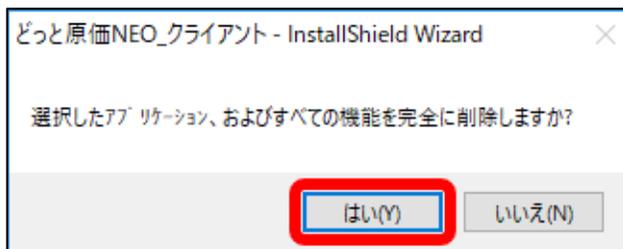
【1】 クライアントのアンインストール

1. 「コントロールパネル」-「プログラムと機能」または「プログラムのアンインストール」から「どっと原価 NEO クライアント」を削除します。

「どっと原価 NEO クライアント」を選択して右クリックして「アンインストール」を選択します。



2. 以下のダイアログボックスが表示されましたら、「はい」で削除をおこないます。



以上でクライアント機からの『どっと原価 NEO シリーズ』 アンインストールは完了です。

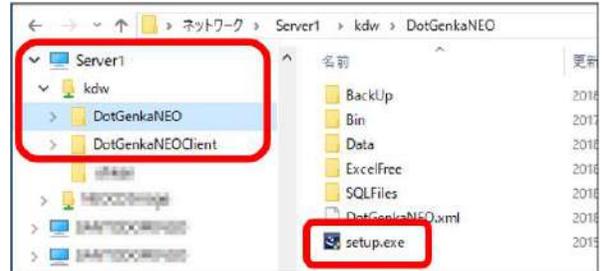


【2】 クライアント 新規インストール

新サーバー機の「KDW」フォルダからクライアント機のインストールを行います。

LAN 追加ライセンス分のインストールをパソコンごとに行います。

1. クライアント側のパソコンで操作します。ネットワークコンピュータからコンピュータ名で、「KDW」のフォルダを開きます。その中の「DotGenkaNEO」に「Setup.exe」があります。そちらをダブルクリックすると、クライアントセットアップが始まります。

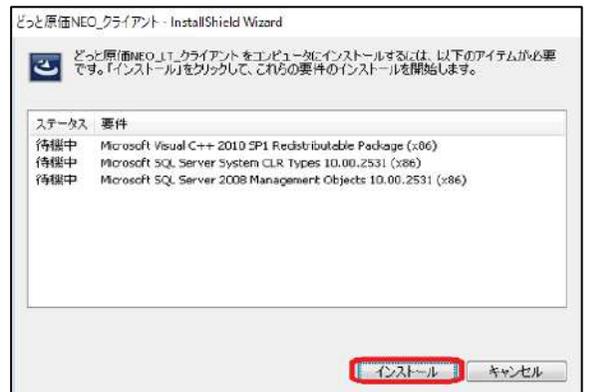


2. 右図のように、クライアントに必要なアイテムのインストールの一覧が表示されましたら、「インストール」を選択し、アイテムのインストールを行います。

※インストールが必要なアイテムは右の3アイテムとなります。

既にインストールされているアイテムは一覧に表示されません。

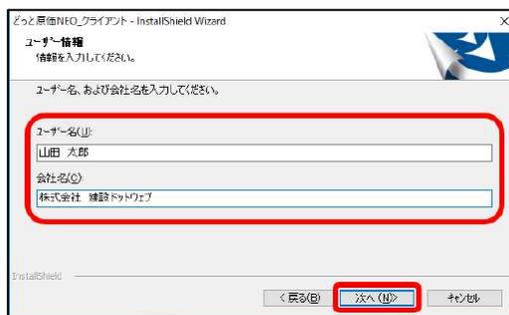
また、全てのアイテムがインストールされている場合、この画面は表示されません。



3. 右図の画面が表示されますので、「次へ」を選択します。



4. ユーザー情報の画面が表示されますので、「ユーザー名」、「会社名」を入力します。ユーザー名、会社名は全角換算64文字以内で入力してください。入力が終わりましたら「次へ」を選択します。



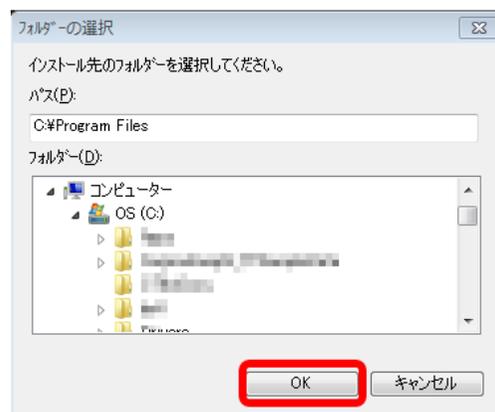
5. 『どっと原価 NEO シリーズ』をインストールするドライブを指定します。

あらかじめ、こちらで指定したインストール先フォルダが表示されますので、そのままよい場合は「次へ」を選択し、手順7. へお進みください。

インストール先フォルダを変更したい場合は「変更」を選択し、手順6. へ進んでください。



6. 「フォルダーの選択」画面が表示されます。インストールしたいフォルダを選択し、「OK」を選択します。「インストール先の選択」画面に戻りますので、「次へ」を選択してください。



7. インストールの準備が完了すると、右図の画面が表示されます。「インストール」を選択すると、インストールが始まります。



8. インストールが終了すると、InstallShield Wizard の「完了」画面に進みます。「完了」を選択してコンピューターを再起動してください。

『どっと原価 NEO シリーズ』クライアントセットアップの完了です。



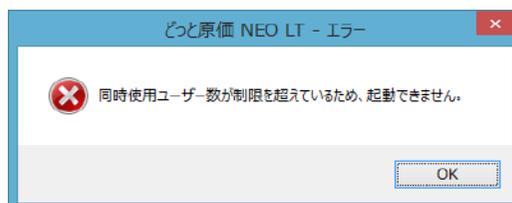
9. 『どっと原価 NEO シリーズ』のアイコンをダブルクリックして起動します。

【会社選択】画面より会社を選択して、ログインボタンを選択します。

【ユーザーログオン】画面でユーザーID を入力し、OK ボタンを選択することでログインできます。



ログイン時、ご契約クライアント数を超えた場合、右図のようなメッセージが表示されます。



インストールが完了しましたら、ネットワーク環境の設定を行います。
ご利用いただくクライアント機の OS が 32bitまたは 64bitにより設定が異なります。
32bitOS ご利用の場合(→P61)、64bitOS ご利用の場合(→P62)

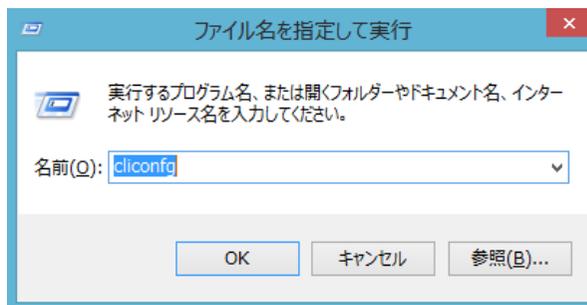
《OSの確認方法》

「コントロールパネル」-「システム」の「システムの種類」で確認できます。

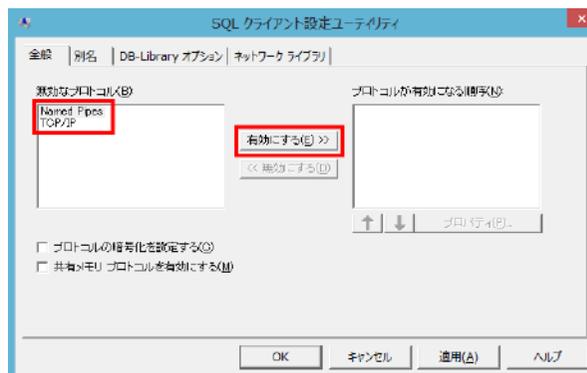


① 32bitOSご利用の場合

10. キーボードの「Windows キー」+「R」を押すと【ファイル名を指定して実行】画面が起動します。
「cmd」と入力して「OK」を選択し、【SQL クライアント設定ユーティリティ】を起動します。



11. 無効になっているプロトコルの「Named Pipes」、「TCP/IP」を選択して「有効にする」のボタンを選択します。



12. 有効になっているプロトコルに「Named Pipes」、「TCP/IP」が入りましたら、「TCP/IP」が上段に来るように「上矢印」ボタンで順番を入れ替えて、「OK」を選択します。



13. 『どっと原価 NEO シリーズ』のアイコンをダブルクリックして起動します。
【会社選択】画面より会社を選択して、ログインボタンを選択します。
【ユーザーログオン】画面でユーザーIDを入力し、OKボタンを選択することでログインできます。
以上で 32bitOS の設定は完了です。



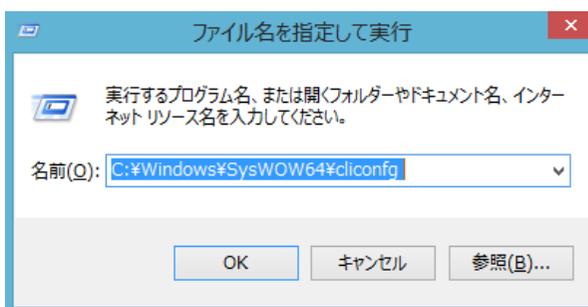
※ご注意※



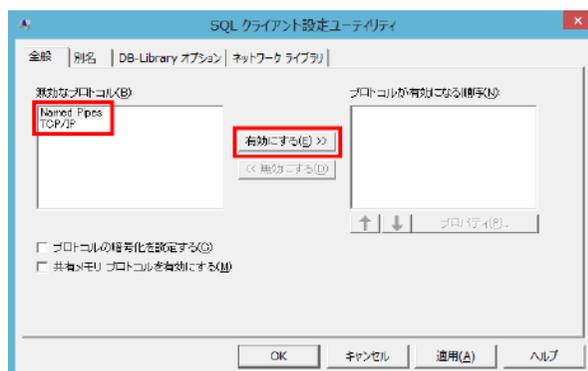
お使いの PC にインストールされているアンチウイルスソフトなどの影響で、『どっと原価 NEO シリーズ』が起動しない場合があります。その場合、以降手順 14～(→P63)の設定をお試しください。

② 64bitOSご利用の場合

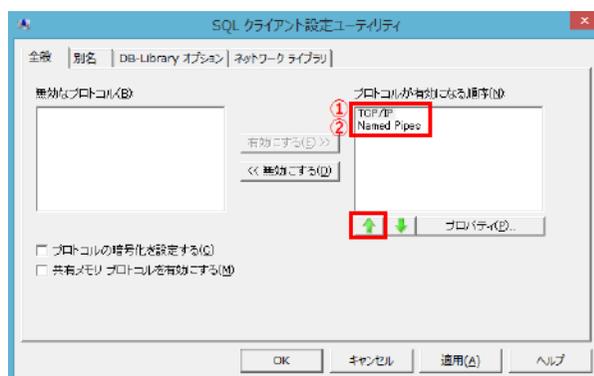
10. キーボードの「Windows キー」+「R」を押すと【ファイル名を指定して実行】画面が起動します。
「C:¥Windows¥SysWOW64¥cl iconfg」と入力して「OK」を選択し、【SQL クライアント設定ユーティリティ】を起動します。



11. 無効になっているプロトコルの「Named Pipes」、「TCP/IP」を選択して「有効にする」のボタンを選択します。



12. 有効になっているプロトコルに「Named Pipes」、「TCP/IP」が入りましたら、「TCP/IP」が上段に来るように「上矢印」ボタンで順番を入れ替えて、「OK」を選択します。



13. 『どっと原価 NEO シリーズ』のアイコンをダブルクリックして起動します。
【会社選択】画面より会社を選択して、ログインボタンを選択します。
【ユーザーログオン】画面でユーザーID を入力し、OK ボタンを選択することでログインできます。
以上で 64bitOS の設定は完了です。



※ご注意※



お使いの PC にインストールされているアンチウイルスソフトなどの影響で、『どっと原価 NEO シリーズ』が起動しない場合があります。その場合、以降手順 14～(→P63)の設定をお試しください。

14. キーボードの「Windows キー」+「R」を押すと【ファイル名を指定して実行】画面が起動します。

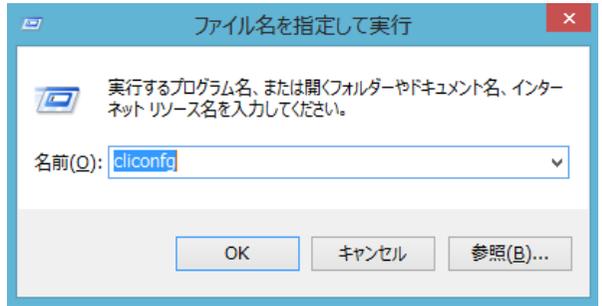
32bitOS の場合は「cmd /c net use */

64bitOS の場合は

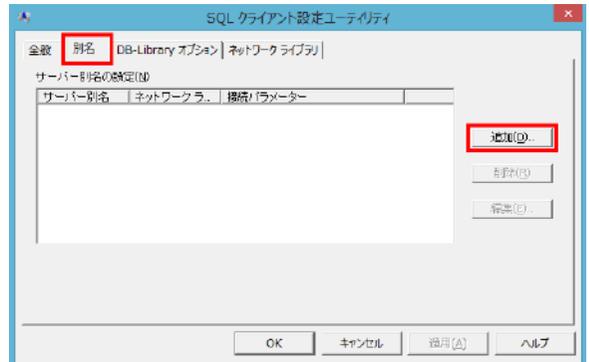
「C:\Windows\SysWOW64\cmd /c net use */

と入力して「OK」を選択し、【SQL クライアント設定ユーティリティ】を起動します。

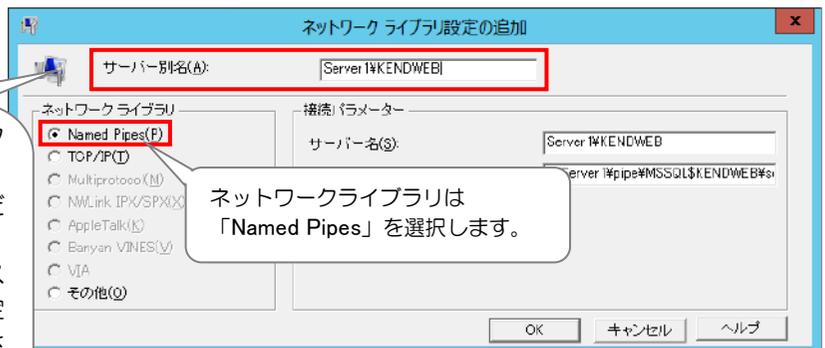
※画面は 32bitOS になります。



15. 「別名」タブを選択します。サーバー別名が登録されていない場合は、「追加」ボタンを選択して、追加登録を行います。

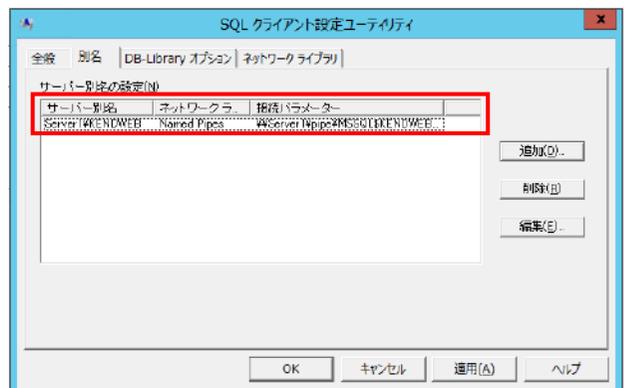


16. サーバー別名に「サーバー機のコンピューター名¥KENDWEB (インスタンス名)」を登録し、「OK」ボタンを選択します。



サーバー機のコンピューター名がわからない場合は、P74「※1」をご参照ください。
インスタンス名は、基本システムインストール時に指定したものを登録してください。(P48 参照)

17. 右のようにサーバー別名が設定されますので、「適用」または「OK」ボタンを選択します。



18. 『どっと原価 NEO シリーズ』のアイコンをダブルクリックして、起動をご確認ください。

※1 サーバー機のコンピューター名がわからない場合は、サーバー機で『どっと原価 NEO シリーズ』を起動し、下記メニューからご確認ください。(通常は各クライアントからでも確認できます)



「サーバー」に記載されているものがサーバー機のコンピューター名です。
(この場合は「Server1」です。)

VII. 旧サーバー アンインストール

【1】 基本システムのアンインストール

必要に応じて旧サーバーの『どっと原価 NEO シリーズ』をアンインストールします。

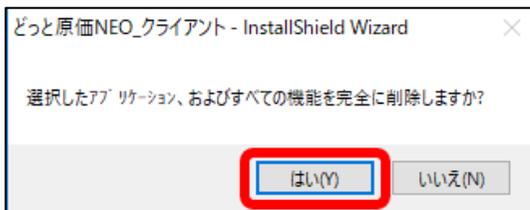
1. 「コントロールパネル」-「プログラムと機能」または「プログラムのアンインストール」から以下の3つを順番に削除します。



2. 「どっと原価 NEO クライアント」を選択して右クリックして「アンインストール」を選択します



3. 以下のダイアログボックスが表示されたら、「はい」を選択します。



4. 同様に「どっと原価 NEO サーバー」、「どっと原価 NEO_Excel 書式 (標準書式)」に対し、削除を行うと、サーバー機からの『どっと原価 NEO シリーズ』アンインストールが完了いたします

VIII. OS 及び接続環境上の注意事項

【動作環境】

		スタンド アロン	ピア・ツー・ピア型		クライアント・サーバー型		
			サーバー	クライ アント	サーバー	クライアント	
						ドメイン	ワー ク グループ
Windows10	Home	○	×	○	×	×	○
	Pro Enterprise	○	○(注)	○	×	○	○
Windows8.1	(エディション名なし)	○	×	○	×	×	○
	Pro Enterprise	○	○(注)	○	×	○	○
	Enterprise Ultimate						
Windows Server	WindowsServer 2019/2016 2012R2/2012	—	—	—	○	○	○

(注) 共有資源へのアクセスは同時20ユーザーの制限となります。これは、使用許諾契約書(EULA.txt)に明記された Windows10 Pro、Enterprise ならびに Windows8.1 Pro、Enterprise の仕様となります。
 同時20ユーザーを越える場合はサーバー機(WindowsServer2019/2016/2012R2/2012)をご使用ください。
 併せて別途 Microsoft SQL Server も必要となります。

初 版 2021 年 8 月 17 日

製作・著作 株式会社 建設ドットウェブ
〒920-8203
石川県金沢市鞍月 4 丁目 115 番地
金沢ジーサイドビル 3 階
<https://www.kendweb.net/>

ご 注 意 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
本書の内容に関しては訂正・改善のため、予告なしに変更することがあります。
